

ヨコハマアートサイト

2019 実施レポート

地域のアート活動を
応援します



Yokohama
Artsite
2019 Report



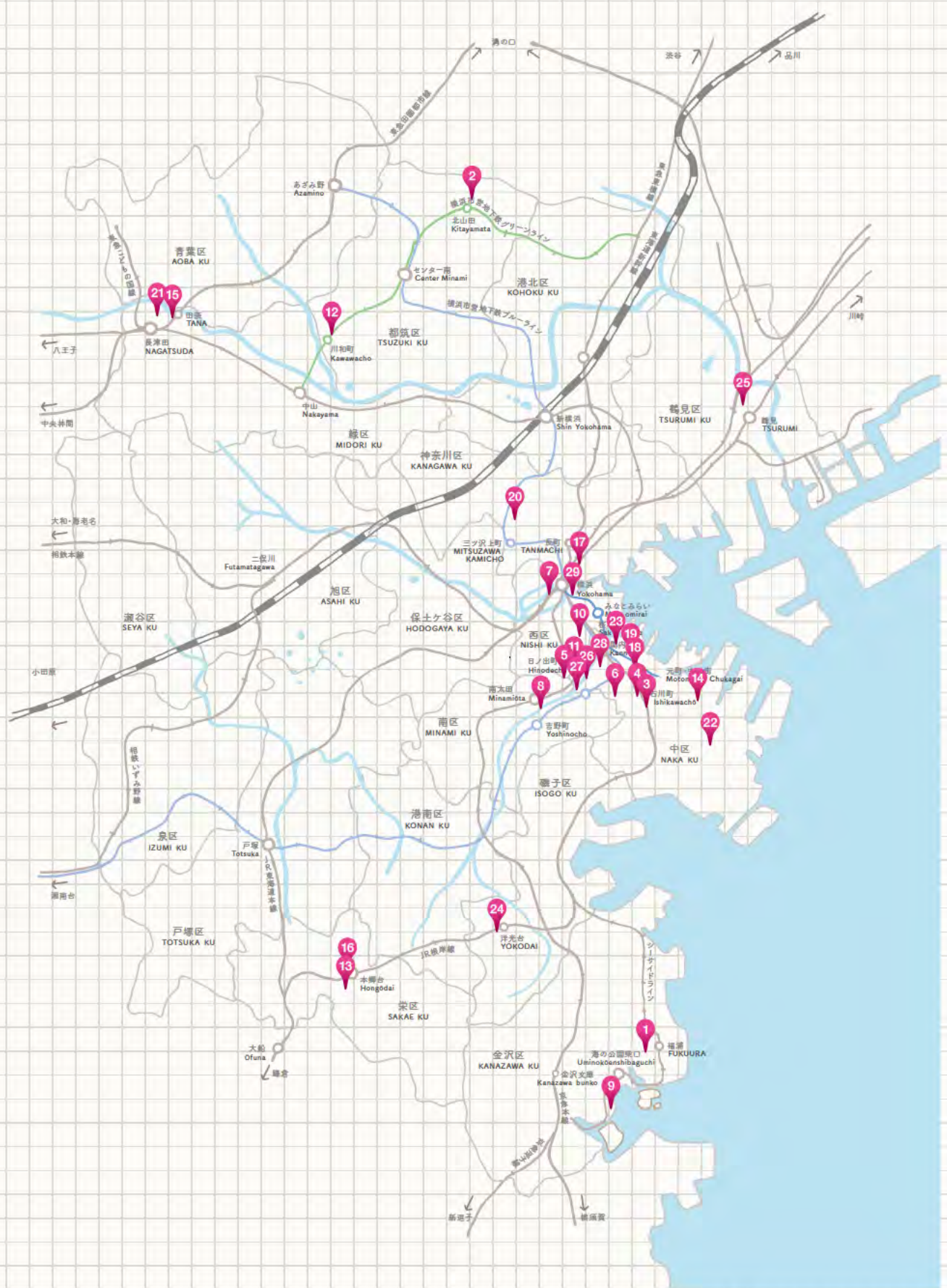
横浜市地域文化サポート事業 ヨコハマアートサイト2019実施レポート 2020年3月31日発行

URL: <https://y-artsite.org/> TwitterID: @Y_Artsite Facebook: <https://www.facebook.com/yokohama.artsite/>

発行: ヨコハマアートサイト事務局(認定特定非営利活動法人STスポット横浜、横浜市文化観光局、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)

編集: 認定特定非営利活動法人STスポット横浜 デザイン: 相澤事務所株式会社 印刷・製本: 株式会社 三島印刷

ヨコハマアートサイト事務局 〒220-0004 横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル208(認定特定非営利活動法人STスポット横浜 地域連携事業部 内)
TEL:045-325-0410 FAX:045-325-0414 MAIL:office@y-artsite.org



REPORT (団体名50音順)

- 02 1 アーティストネットワーク+コンパス / 会社まるごとギャラリー2019
- 04 2 特定非営利活動法人アーモンドコミュニティネットワーク / アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト
- 06 3 認定NPO法人あっちこっち / アート・フォー・コミュニティ〜若手アーティスト達が人と地域コミュニティをつなぐための次のステップ事業〜
- 08 4 石川町ストリートアートプロジェクト実行委員会 / 石川町ストリートアートプロジェクト
- 10 5 磯子区障害者地域活動ホーム / あいさつシリーズVol.1 こんにちはうたって おどって つくろうよ
- 12 6 居場所「カドバヤで過ごす火曜日」運営委員会 / カドバヤ・オープンDAY一つどう・かたろう・つながろう
- 14 7 特定非営利活動法人Umiのいえ / 親子のためのアート&ライブイベント「しあわせのはじまり」
- 16 8 大岡川アートプロジェクト実行委員会 / 大岡川アートプロジェクト「光のぶらむなあと2019」
- 18 9 金沢文庫芸術祭実行委員会 / 第21回金沢文庫芸術祭
- 20 10 紙芝居文化推進協議会 / 第20回手づくり紙芝居コンクール
- 22 11 黄金町BASE / 黄金町BASE
- 24 12 ココロはずむアート展実行委員会 / ココロはずむアート展
- 26 13 さかえegaoプロジェクト / さかえegaoフェスティバル
- 28 14 NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと / ところに響く打楽器作っちゃおう
- 30 15 都筑アートプロジェクト / 土地の記憶から生まれるアート「田んぼの向こうのこどもの国」
- 32 16 ティーンズクリエイション組織委員会 / ティーンズクリエイション2019
- 34 17 東横フラワー緑道フェスタ実行委員会 / 東横フラワー緑道アートフェスタ
- 36 18 Picture This Japan / Picture This Japan 2019: 横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト
- 38 19 特定非営利活動法人美術保存修復センター横浜 / 未来に繋ごう、皆んなの!!横浜の!!歴史・文化・芸術!! ~美術品修復プロジェクト~
- 40 20 病院と地域の協働によるおまつり実行委員会 / 病院と地域とアートでつくるおまつり
- 42 21 NPO法人ふかふか / みんなでワークショップ
- 44 22 本牧こどもディスコ実行委員会 / 本牧こどもディスコseason5
- 46 23 ゆたかなイばしょ運営委員会 / ゆたかなイばしょのさがしかた
- 48 24 洋光台ママゴスペルサークル なないろハーモニー / Happy Place for Mom ~ママのためのゴスペルワークショップ~
- 50 25 横浜キネマ倶楽部 / 幻の記録映画「寿ドヤ街 生きる1&2」上映会in寿町 70年代の鶴見を記録した映画「日曜の子供たち」上映会in鶴見
- 52 26 横浜下町パラダイスマつり実行委員会 / 横浜下町パラダイスマつり2019+よこはま若葉町多文化映画祭2019
- 54 27 一般社団法人横浜若葉町計画 / 若葉町ウォーフ「まちなかギャラリー」
- 56 28 LifeWorksプロジェクト / 横浜を舞台にした映画プロジェクト「ライフワークス」への製作、活動助成
- 58 29 LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA / LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA ART PROGRAM 2019 ~子どもの未来を切り開くグローバルアート活動~

60 ヨコハマアートサイト2019を振り返る

ヨコハマアートサイト2019「3つのテーマ」



アートを通じて地域資源の魅力を引き出し、開催地域内外のにぎわいを創出するもの



アートを通じて福祉・環境・街づくり・国際交流等における地域課題にアプローチするもの



横浜の歴史や自然、景観などに着目し、アートを通じて横浜の魅力を生かすもの



アーティストネットワーク+コンパス

連絡先
URL <http://www.anc3434.com>
E-mail info@anc3434.com
TEL 045-785-3434
Facebook <https://www.facebook.com/ANC3434/>

団体紹介

任意団体「アーティストネットワーク+コンパス」のスタッフ及び、外部アドバイザーを通じて企画・運営しています。金沢区福浦界隈の工場地域にて特有の地域性を生かした活動を展開し、場所の不利を有利に活用しての発信、近隣会社・工場の繋がり、拡大を目指し、協力工場が増えることを狙います。



メイン会場ギャラリーツアー@山陽印刷

工業地域をアートでめぐる
美術展とワークショップ

金沢区にある工業地域を舞台に、廃材を利用した作品などを展示する美術展やワークショップを開催するアートプロジェクト。7回目となる今年度のテーマは「熱 パッション」です。参加作家や企業がものづくりに対する情熱を思い出すような展示を目指し、設定しました。

工場や社屋の内外に美術作品を設置する「会社まるごとギャラリー」では8会場で作品を展示。シーサイドライン市大医学部駅～幸浦駅と4つの駅にまたがる広いエリアでの展開となりました。また、参加作家の一人である美術家・竹本真紀さんはそれらの会場をめぐる回遊型の作品を発表し、とおきたくなるようなオリジナルの地図を来場者に配布しました。大学との連携としては、女子美術大学プロダクトデザイン科(松本ゼミ)による「アップサイクル」商品のデザイン提案や、女子美術大学大学院環境デザイン領域(飯村ゼミ)による廃材を活用した環境デザインの展示も例年に引き続き実施しました。

写真家・川名マッキーさんによる工場撮影散歩ワークショップでは、新たに受け入れてくれる企業も増えました。特に、これまで出入りが難しく、ハードルの高かった食品系の工場と関係ができたことはうれしい成果です。

順調に協力企業の数も増え、新たな出会いも生まれつつあるなか、9月と10月には開催地域を大型台風が通過。臨海部にある工場は高波による浸水で大きな被害を受けました。結果、美術展示は一部中止。初の試みとなる関東学院大学共生デザイン学科(淡野ゼミ)と連携したワークショップを計画していた、金沢臨海部産業団地の魅力発信と価値創造を目指した親子向けのワークショップイベント「Aozora Factory」も開催中止となりました。

回を重ね、安定的な運営ができるようになってきた一方で、これまでの実績や成果を見直す必要性を感じています。今後も、顔の見える関係性を大切に、工場地域が盛り上がり、訪れた人が地域を巡りたくする方法や可能性を探っていきます。

会期：2019年9月28日(土)～11月9日(土)

会場：山陽印刷株式会社/他7社、金沢区産業振興センター、株式会社ヨコハマ機工、金沢公会堂会議室、株式会社武居商店、株式会社共立紙器製作所、有限会社山田工業所

来場者数：282人

参加アーティスト：川名マッキー、布施新吾、石田美穂、竹本真紀、ミノティカ(つちやみのる)、五十嵐道子、小川敦子、秋元直樹、田中清隆、女子美術大学芸術学部デザイン・工芸学科プロダクトデザイン科アップサイクルデザインプロジェクト 松本ゼミ、女子美術大学大学院環境デザイン領域 飯村ゼミ、関東学院大学共生デザイン学科 淡野ゼミ(展示販売協力=やまゆりの、小川敦子、しばたあい、岡典明、大森牧子、片岡操、上野彰子)

主催：アーティストネットワーク+コンパス

共催：NPO法人Aozora Factory(10月12日のイベントのみ/台風のため中止)

後援：横浜市金沢区役所

協力：山陽印刷株式会社、株式会社坪倉興業、株式会社ニッテ、株式会社山装、鶴見金網株式会社、玉家運輸倉庫株式会社、有限会社協和タイヤ商会、株式会社セキド、株式会社中込製作所、株式会社横浜シーサイドライン、株式会社横浜八景島、並木コミュニティハウス、株式会社メルヘン、株式会社ヨコハマ機工、株式会社HIGASHI-GUMI、東海シャリング株式会社、有限会社竹内紙器製作所、株式会社関東プリンテック、株式会社武居商店、株式会社共立紙器製作所、有限会社山田工業所、NPO法人Aozora Factory

実施イベント

9月28日(土) 会社まるごとギャラリー2019作品展示
～10月26日(土)
9月28日(土) オープニング・ギャラリーツアー
9月28日(土) 百瀬繻乱・撮影体験
10月2日(水) ギャラリーツアー
10月4日(金) ギャラリーツアー
10月7日(月) ギャラリーツアー
10月16日(火) ギャラリーツアー
10月18日(金) ギャラリーツアー
10月24日(木) ギャラリーツアー
10月26日(土) ギャラリーツアー
10月26日(土) クロージング 「利き酒」の会
11月4日(月) アイシングクッキーでハッピータイム
11月9日(土) 金沢区工場撮影散歩



ワークショップ 川名マッキー
金沢区工場撮影散歩@山田工業所
撮影者/川名マッキー



ワークショップ 小川敦子
アイシングクッキーでハッピータイム
@Deli&Cafe メルヘン 金沢公会堂



竹本真紀
回遊展示作品@ヨコハマ機工



特定非営利活動法人
アーモンドコミュニティネットワーク
連絡先
URL <https://npoacn.or.jp/>
E-mail infoacn@npoacn.or.jp
TEL 045-594-7586
Facebook <https://www.facebook.com/NPOAlmondCommunityNetwork/>

団体紹介
不登校、ひきこもり、外国籍といった「生きづらさを抱える」青少年のための、凸凹な個性が発揮でき自己肯定感を高めるアート活動を展開しています。世代と人種と国をつなぎ、取り組みやすい表現活動と作品上演で横浜を中心にインターネットを繋ぎグローバルな事業へと展開中です。



イタリアと横浜の若者の合同展覧会「横浜北部の民話のイラストと大学生の絵本作品」@横浜美術大学

地域のアーティストと協働し 発達の凸凹な青少年をサポートする

生きづらさを抱える青少年の課題に向き合い、イタリア在住の地元出身アーティストと地域に根差したアート活動を行うプロジェクトの8年目。今回も、横浜市北部の民話を題材にしたアート作品の展示と影絵パフォーマンスの発表に加え、アートワークショップや講演を実施することで、地域のさまざまな世代にアプローチしました。

今回は、新たな試みとして横浜美術大学絵本学科と、連携4年目となるイタリア ウルビーノ市の美術専門学校 'Scuola Del Libro'の学生の合同展覧会を開催。横浜美術大学、アーモンドホープセンター、ペルージャ市立現代美術館(イタリア)の3会場で実施し、国際連携を進展させることに成功しました。

オリジナルの影絵パフォーマンスは、青少年とアーティスト、音楽家、読み聞かせの専門家の共同作業により制作されました。上演と併せて開催したワークショップでは、影絵人形の操作、効果音の演奏、ナレーションという3つのチームに

分かれて、上演体験を実施。これは、アートの専門家ではない法人スタッフをワークショップ指導者に育成するという目的においても、一定の成果をあげました。

昨年度から掲げていた目標の一つが、法人の拠点である「アーモンドホープセンター」を地域のコミュニティアートセンターとして機能させることでした。今回は、アーティストとスタッフの打合せや影絵パフォーマンスのリハーサル会場として利用したほか、アート小冊子・随筆本の編集と製本に参加する地域住民と学生ボランティアが集うなど、有機的な活用が実現できました。また、法人の青少年支援事業を利用する不登校気味の小中学生、高校生や療育センターにつながる小学生が、個性的なアーティストと交わる場面もありました。本プロジェクトが「凸凹な個性の人の居場所」となり、年齢や国籍、障害の有無にかかわらず、アートを介して交流する取組をさらに推進させるためにも、今後も事業を継続していきます。

会期：2019年9月2日(月)～2020年1月11日(土)

会場：アーモンドホープセンター、横浜美術大学 図書館

来場者数：1,037人

参加アーティスト：牧田あゆみ、バルバラ・ラーキ、星野拓、萩尾清、金子まや、西村亜季子、谷川マユコ、菅野智子、横浜美術大学絵本学科学生15名、イタリア・ウルビーノ美術専門学校 'Scuola Del Libro'の学生26名

主催：特定非営利活動法人アーモンドコミュニティネットワーク

共催：イタリア・ウルビーノ美術専門学校 Scuola Del Libro、横浜美術大学、「アーモンドの会〜こころを聴くカウンセリング勉強会」

協力：横浜に聴くプロジェクト

助成：クレディ・スイス証券株式会社

実施イベント

- 9月2日(月) 「逆側の世界から」展覧会
- ～1月11日(土)
- 10月5日(土) 「影絵パフォーマンス用キット制作」アートワークショップ
- 10月5日(土) 「音と語り」のワークショップ
- 10月5日(土)、10月31日(木) 影絵パフォーマンス「逆側の世界から」上演会
- 10月19日(土) イラスト・絵本展覧会
- ～11月22日(金) 「こどもたちは本とおしてせかいをみる」
- 10月31日(木) 「影絵パフォーマンス用キット制作」アートワークショップ
- 10月31日(木) 「音と語り」のワークショップ
- 11月2日(土) 講演会「開国苦難：日本を出た幕末・明治の若者」朗読会「萩 見清つれづれ日記」+「アニメーション作品上映会」
- 11月2日(土) 交流会「ネットでつなぐ～横浜とイタリア～」講演会「青少年の「自分探し」の旅」+アニメーション作品上映会
- 12月3日(火)



影絵パフォーマンス「逆側の世界から」上演会
演者：牧田あゆみ、音楽：谷川マユコ、語り：菅野智子



影絵キット制作アートワークショップに参加の大学生と指導アーティスト：牧田あゆみ



朗読会作品「萩 見清つれづれ日記」製本風景

アート・フォー・コミュニティ ～若手アーティスト達が人と地域コミュニティを つなぐための次のステップ事業～



認定NPO法人あっちこっち

連絡先
URL <https://acchicocchi.com/>
E-mail info@acchicocchi.com
TEL 090-1261-1308
Facebook <https://www.facebook.com/npoacchicocchi/>
Twitter @npoacchicocchi

団体紹介

芸術をもっと身近に楽しく元気な社会を一緒につくっていく！
をモットーに、アーティストと芸術を必要とする人々をつなぐ
社会貢献活動に取り組んでいます。横浜市内の芸術施設や
教育施設ほか、東北と熊本の被災地でコンサートやワーク
ショップを開催しています。



麦田町イメージキャラクター「ムギーとギータ」制作

コミュニティとアートをつないで 若手アーティストによる地域活性化

「アートと地方創生」というテーマのもと、地域活性化に
貢献したい若手アーティストとコミュニティを結ぶプロジェクト
の二年目。前回の活動拠点の一つであった多機能型障害
児通所施設キッズコネクションとのつながりから、麦田町発
展会と共に、中区麦田町という地域に根差した取組を行いま
した。麦田町発展会は、1964年に設立され、七夕笹飾り
やハロウィンスタンプラリー、焼き芋大会といったイベントで、
本牧エリアの入り口を活気づけているコミュニティです。

初めての協働ということで、まずは既存のイベントにアート
の要素をプラスすることで、地域との関係を築いていきまし
た。ハロウィンのスタンプラリーイベントではコンサートを開
催。子どもたちが音楽に合わせて踊ったり、リクエスト曲を
アーティストが演奏したりと盛り上がりました。

また、地域からのニーズとして挙げたのは麦田町のキャ
ラクター・ムギーとギータの新モニュメントづくり。従来モデ
ルは重く、イベント時の移動も難しかったことから、美術の

アーティストが軽量モデルを製作しました。地元の材木店や
家電販売店から提供された廃材を活用したアートワーク
ショップも好評で、黄金町BASEとコラボレーションしたクリ
スマス企画では、端材や廃材でオリジナル打楽器「ムギッキ」
を製作し、参加者と合奏を行いました。地元のボランティア
団体・ささやきバンドとのコンサートも同時開催し、来場者
は100人にのびりました。

関わった若手アーティストは異なる分野の人々と協働し、
自分の専門性を言語化して伝える貴重な場として捉えてい
るようです。前回の参加アーティストが立候補し、アーティスト
リーダーとしてプロデュースや交渉を担当するという流れも
できました。

関わった人々の中で、すでに次回への展望が生まれてい
ることはうれしい成果です。今後は、制作段階から双方向的
なやりとりを重ねることで、今までにないプログラムを作っ
ていきたいと思っています。

会期：2019年8月1日(木)～2020年1月13日(月)
会場：仲尾台コミュニティハウス、麦田地域ケアプラザ、おお
たに家電、津ノ国屋材木店、キッズコネクション、麦田
町内会館
来場者数：380人

参加アーティスト：降旗真理子、田中愛実、権原いちご、藤川玲菜、于景、黄金町
BASE(山田裕介、杉山孝貴、水谷朋代)、ささやきバンド

主催：認定NPO法人あっちこっち
共催：麦田町発展会、多機能型障害児通所施設キッズコネクション、麦田地域ケア
プラザ
協力：津ノ国屋材木店、おおたに家電

実施イベント	
8月1日(木)、 10月31日(木)	麦田町キャラクター制作
9月15日(日)	キックオフミーティング & 講座
9月30日(月)	キックオフミーティング & 講座
10月31日(木)	ハロウィンコンサート、 麦田町キャラクター制作お披露目
12月7日(土)	クリスマスコンサート
12月14日(土)	クリスマス廃材楽器ワークショップ & コンサート
1月13日(月)	アート・フォー・コミュニティ報告会



「ムギーとギータ」お披露目



ミニ・クリスマスコンサート



廃材楽器「ムギッキ」作り



石川町ストリートアートプロジェクト
実行委員会

連絡先
E-mail art.ishikawacho@gmail.com
TEL 045-641-7638
Facebook https://www.facebook.com/street.art.ishikawacho/

団体紹介

目的は「アートによるまちづくり」です。2つの商店街の会長が在籍し、他、店舗経営者など若手リーダーで構成されています。下町の昔ながらの商店街風景を残しつつ、横浜のストリートアートという要素を取り入れることでブランディングを図ります。



ゲストハウス内壁画

スケートボードやグラフィティなど
路上から生まれたカルチャーで商店街をPR

ストリートアートという切り口で、石川町のまちを盛り上げるアートプロジェクトの3年目。商店街のイベントにアートの要素を加えることで「元町／山手／中華街地区の玄関口」だけではない、まちの新しい魅力を発信してきました。今年はストリートカルチャーを専門とするアーティストが多く参加し、今まで不足していた「ストリート」というブランディングの面で成功を収めることができました。

スケートボードがオリンピックの新種目に採用されたことで注目も集まったのか、スケートボードのライブペインティングなどイベントと連動した企画はどれもこれまでにない雰囲気でも盛り上がりました。中でも、路上に設置した車に誰でも自由に絵を描ける「落書きカー」は終日大にぎわい。本物のカボチャで、ハロウィンのジャック・オ・ランタンをつくるワークショップも、定員を超えた参加者が集まるなど、予想以上の人気ぶりでした。

まちのゲストハウスをアートスポットとして活用するという

取組では、新しくオープンする3棟のゲストルームそれぞれに地元アーティストの作品を展開。お披露目の際には、敷地内に野外インスタレーション作品も設置し、まちの一角に新しい景色を生み出しました。

今回は来場者とアーティストが接する機会がこれまでよりも多く、若年層だけでなく、広い世代に向けて、横浜らしいおらかな「ストリートアート」の魅力をPRする場に恵まれました。

運営面では、実行委員がそれぞれ商店などを営んでいるため、イベント時のスタッフ確保に苦労しました。ボランティアが集まらなかったり、参加したアーティストが協力してくれても指示を出せるスタッフがいなかったりと、当日運営についての課題が見える年となりました。スタッフの確保や認知度向上のためにも、今後は開催期間中だけでなく、一年を通して、SNS等で参加アーティストの活動やワークショップなどの情報を積極的に発信していくことが重要だと感じています。

会期：2019年9月29日(日)～12月1日(日)

会場：ひらがな商店街ウェストアベニュー路上、マーケットテラス
カフェ石川町、石川町駅南口前、石川町2丁目金米堂前
広場、石川町歩道橋前広場、Yokohama Guesthouse
新規棟

来場者数：9,058人

参加アーティスト：ロコサトシ、Junk-R、ONESEAfromあーとうろあーず、柘雄介、
チングルベル、LAUNCH PAD、HIDEYUKI KATSUMATA、
中村明香音、土屋図形株式会社、YOMA TAKATORI、中島崇、
YABAIfamily、BonelessHolic、土田ミレイ

主催：石川町ストリートアートプロジェクト実行委員会

共催：石川町駅前青空マーケット実行委員会、石川町2丁目青年部、裏フェス実行
委員会、石川町音楽祭実行委員会

後援：石川町連合商店街

協賛：高橋自動車株式会社、一般社団法人 横浜まちクリエイティブ

協力：石川町活性化委員会、石川町越地区連合町内会

実施イベント

9月29日(日) 石川町GETDOWN×アート
9月29日(日) コミュニティカフェ×アート×ラグビー
～11月2日(土)
10月27日(日) 石川町ハロウィン×アート
11月16日(土) 石川町駅前フリマ×ストリート×アート
11月16日(土) よこはま運河チャレンジ×アート
11月16日(土) ゲストハウス×アーティスト
～12月1日(日)
11月28日(木) ゲストハウス内壁画×アート×パーティ
～12月1日(日)



ロコサトシライブペインティング



ライブペインティング



ストリートファッションショー

あいさつシリーズ Vol.1

こんにちは うたって おどって つくろうよ



磯子区障害者地域活動ホーム

団体紹介

「磯子区障害者地域活動ホーム」は、さまざまなハンディキャップを持った人達が集まる福祉施設です。日々「あんなこといいな!! できたらいいな!!」を、妄想しながらも泣いたり、笑ったり、ドタバタしながらも面白い過ごし方を探し、生命力をぶつけています。

連絡先
E-mail npohama2007@ybb.ne.jp
TEL 045-751-7055



かいだん広場

障害者地域活動ホームのメンバーがアーティスト集団としてまちに滞在

障害者地域活動ホームの日常をまちに持ち込むことで「障害者を理解する」のではなく、自然な出会いの場を生み出す試みの一年目。事前に活動ホーム内で行ったワークショップでは、音楽家・即興からめーる団と共にテーマソング「あれはミラクル これはいそかつ」を創作。その後、ダンサーの入手吉奈さんと振付を考えました。ワークショップでの関わり方は施設職員にとっても新鮮なもので「こういう支援の仕方もあるのか」という発見にもつながりました。また、発表を目指すことで、表現活動ではなく「訓練」になってしまうことを恐れ、あくまで制作過程を重視して進めていきました。

滞在期間中は、毎日5人ほどのメンバーが日中活動として作品制作に取り組みました。刺繍やオリジナル絵本、小さなカードに文字を書き付けたり、ちぎった包装紙をコラージュしたりと表現の手法は人それぞれ。作品は、造形ユニット・ドゥイの手によって空間全体を彩るように展示

されました。他にも、普段は挑戦できないような大きい立体作品を作り上げたり、集中力を必要とする作業に没頭したりと、非日常空間に創造欲求が刺激されたようです。

地域とつながるための取組として、一般向けアートワークショップやトークも実施。中でも、障害者商品開発会議・バックカースのトークは、障害者の家族や支援者との関係を考えることを期待して企画しました。「同じことで悩んでる人がいる」ということに気付くだけでも、不安な気持ちは少し和らぎます。半屋外の広場で行ったダンスタイムでは、居合わせた小学生がゆるやかに参加し、みんなでハイタッチをする場面もありました。

活動を終え、メンバーからは「認めてもらえたようでうれしい」「もっと自分の作品を見てほしい」といった声があがりました。施設職員の中でも、外部とつながることの重要性が共通認識として生まれています。今回の経験を活かし、今後は他地域での実現可能性も探っていきます。

会期：2019年8月1日(木)～12月9日(月)
会場：磯子区障害者地域活動ホーム、1の1スタジオ、かいだん広場、高架下スタジオSite-D集会場
来場者数：185人

参加アーティスト：入手吉奈、即興からめーる団、造形ユニットドゥイ

主催：磯子区障害者地域活動ホーム
協力：NPO法人新、有限会社高工

- | 実施イベント | |
|----------------------------|-----------------------------------|
| 8月1日(木)、8月26日(月) | オリジナルソングワークショップ |
| 9月6日(金)、10月18日(金) | 創作ワークショップ |
| 11月14日(木)、12月3日(火) | オリジナルダンスワークショップ
いそかつこんにちは制作タイム |
| ～12月9日(月) | |
| 12月4日(水)～12月6日(金)、12月9日(月) | いそかつこんにちはダンスタイム |
| 12月7日(土) | 親子でわくわくからだあそび |
| 12月7日(土) | バックカースがやってきたヤァ!ヤァ!ヤァ! |
| 12月8日(日) | 「日々生まれるもの」と |
| 12月8日(日) | 親子で音楽あそび |



つくろうよ



おどろうよ



うたおうよ



1の1スタジオ1階

カドベヤ・オープンDAY —つどおう・かたろう・つながろう



居場所「カドベヤで過ごす火曜日」 運営委員会

連絡先
URL <https://www.kadobeya2010.net/>
E-mail chacky@keio.jp
TEL 090-4722-8001

団体紹介

カドベヤは2010年4月に慶應義塾大学とコトラボ合同会社が協同で設立しました。2010年6月からワークショップと共に食べることを中心に活動を開始しました。ワークショップは本プロジェクトの目的に賛同するアーティストがボランティアに行っています。



カドベヤの書初め

居場所の中と外から アートとコミュニティについて考える

毎週火曜日の夕方にオープンする地域の居場所。週替わりのワークショップで心と体をほぐした後、みんなで夕食をつくり、食べるというアートプロジェクトです。今年度は、企画当初からこの10年間を振り返り、次のステップへ進むため、火曜日の居場所運営に加えて、2018年度より始まった「創造力とコミュニティ」研究会の活性化を目指しました。

研究会では、毎回異なるアーティストをゲストに招き、ダンス、音楽、食などを通じてコミュニティを考えるディスカッションを実施。居場所の参加者や協力アーティストのみならず、学生や教員、大学職員も参加し、コミュニティやアートの意味と意義、またそれらをつなぐ仕掛けについて積極的な意見交換を行いました。ここで話し合われたことは、今後のカドベヤの運営に活用するとともに、開所10周年企画の一環として、外部に発信していく予定です。火曜日の居場所では、美術や音楽、文芸にパフォーマンス

とさまざまなジャンルのワークショップを開催しました。今年度は、20代から70代の幅広い年代層が常連として参加するようになり、世代間交流の場所として機能し始めた初めての年でもあります。20代、30代、40代、50代、60代、70代と6つの年代の参加者が、それぞれ共通の興味や異なる考えを持ち寄って、互いの特質を尊重しながら支え合うことで、新たなコミュニティの在り方が見えてきました。カドベヤでは今後も引き続き多様な人々を迎え入れていきますが、同時に、年代を越えて交流するという点は、これからも大切にしていきたい特徴の一つとなりました。

居場所の運営と研究を両輪として回すことは、これまで課題の一つでした。活動の継続を通して、この二つをつなげることができたというのは、未来につながるうれしい一歩です。来年度はいよいよ10周年。事業継続のためには、自助のシステムを整えながらも、外部に居場所の意義を理解してもらうことに尽力したいと思います。

会期：2019年7月2日(火)～2020年1月31日(金)

会場：カドベヤ

来場者数：309人

参加アーティスト：赤津正人、厚地美香子、内海啓司、梅里隆一、海東宏二、金澤礼子、三枝まり、ジャー・勝間田・真理子、関さなえ、寒川明香、瀬野美佐、手塚千鶴子、徳永彰、花崎三千花、生木政壽、松元康太、湊祐典

主催：居場所「カドベヤで過ごす火曜日」運営委員会

後援：慶應義塾大学教養研究センター

協力：コトラボ合同会社、一般社団法人「地唄舞普及協会」、黒沢美香&ダンスズ、The Dance Times

助成：慶應義塾大学教養研究センター部門内調整費

実施イベント

- 7月2日(火) みんなで詩人になるタベ
- 9月24日(火) ゆる〜く、音楽を一緒に楽しもう
- 7月9日(火) 作品の見せ方を考えよう
- 7月16日(火)、10月1日(火) みんなで紙芝居
- 7月23日(火)、12月17日(火) コラーージュのタベ
- 7月30日(火)、1月14日(火) カドベヤのみんなのJAZZ
- 8月6日(火)、10月15日(火)、12月10日(火) 一口餃子を作るタベ
- 8月13日(火)、1月21日(火) 絵手紙を描こう
- 8月20日(火) ボディ・コンディショニング
- 8月27日(火)、12月3日(火) はじめの仏教
- 9月3日(火)、11月19日(火) ほっこり手当てと動きのマッサージ
- 9月10日(火)、10月29日(火) 和を嗜む
- 10月8日(火)、1月28日(火) スクラッチして絵を描こう!
- 10月22日(火)、10月29日(火) でっかい絵を描こう!
- 11月12日(火) 結ぶ・つながるからだの冒険
- 12月24日(火) カドベヤのクリスマス
- 1月7日(火) カドベヤで書初め!
- 9月25日(水) 創造力とコミュニティ研究会4
- 10月30日(水) 創造力とコミュニティ研究会5
- 1月31日(金) 創造力とコミュニティ研究会6



でっかい絵を描こう



昭和の香りたっぷりの紙芝居のタベ



皆で創るJAZZ

親子のためのアート&ライブイベント 「しあわせのはじまり」



特定非営利活動法人Umiのいえ

連絡先
URL <http://www.uminioie.org>
E-mail umi@uminioie.org
TEL 045-324-8737
Facebook <https://www.facebook.com/uminioie.org/>

団体紹介

Umiのいえは、いのち・こころ・からだ・くらしの学びあいの場です。出産子育て、食、健康、住まい、心、親子、遊び、文化、支援などいのちにつながるあらゆる講座やワークショップ、語り合いの場を企画開催しています。変革期にある日本社会の中で、地域ではなく、「思い」で繋がる子育て、いのち育ての場づくりを目指しています。



ベリーダンス

会期：2019年8月25日(日)

会場：西公会堂

来場者数：200人

参加アーティスト：おおたか静流、Aberrations、サファリパークDuo、カラダオーケストラ、松本貴子マリア

主催：特定非営利活動法人 Umiのいえ

協力：Flow Naturally、ファミリーハウス リラのいえ、障害者就労継続支援B型事業所 どんぐりのまち、がんこ本舗 おそうじ学校

実施イベント
8月25日(日) しあわせのはじまり

子どもも大人も関係なく 「これが私」を伝え合う一日

自分を表現することのすばらしさ、誰でも表現者であるということ発信する参加型コンサートの9回目。ホールだけでなくホワイエでの物品販売や、和室で横浜シュタイナーこどもの国教師による人形劇公演を行うなど公会堂全体を会場とした空間づくりを行いました。

今回のテーマは「This is Me」。多様性に触れることを意識したプログラム作りを心掛けました。「おいしい・たのしい・こちよい」がスローガンのホワイエマーケットには小児がん支援のレモネードスタンド、どんぐりでできたお茶やおやつのお店など、さまざまなブースが並び、「こどもえんにち」と名付けた工作コーナーは、お面づくりや、ピュンピュンごまづくりを体験する子どもたちでにぎわいました。

ステージは、おおたか静流さんによる音楽ライブや、体を自由に動かすカラダオーケストラの参加型パフォーマンス、ジャズユニット・サファリパークDuoなどのゲストアーティストによるプログラムだけでなく、団体拠点での定期講座か

ら生まれた合唱部の発表も行いました。客席の最前列には子どもたちが自由に動けるスペースを設け、ステージと客席が一体となるように演出。希望者が思い思いに自分を表現した「10秒スピーチ大会」も好評でした。

運営面では、初の試みとしてクラウドファンディングサービスの「Campfire」を活用。企画に賛同するサポーターからの寄付金で、アーティスト関連の予算やスタッフ人件費をこれまでより増額することができました。イベントに来られない遠方のサポーターともつながる窓口ができたことは、思わぬ成果です。一方、クラウドファンディングの利用にあたっては慣れないことも多く、試行錯誤の連続で、告知や集客の工夫をする時間が十分に取れないといった苦労もありました。小児がん患者のご家族を招待するサービスは4組の利用がありましたが、目標値には届きませんでした。今後は、広報の手法やタイミングの見直しが課題です。



おおたか静流 ライブコンサート



工作コーナー



お母さんもおんぶでピアノを演奏



大人も子どもも心を合わせて合唱

大岡川アートプロジェクト 「光のぷろむなあと2019」



大岡川アートプロジェクト実行委員会

連絡先
URL <http://ohokagawaart.blog45.fc2.com/>
E-mail ohokagawaart.koho@gmail.com
Facebook <https://www.facebook.com/ohokagawaart/>
Twitter @ohokagawaart

団体紹介

2008年、南区吉野町～南太田界隈の大岡川周辺に光の
アートを展開することを通して地域を活性化し、まちの新たな
魅力を創造することを目指して活動。2009年、市民主体の実
行委員会を立ち上げ、アートイベントを行っています。



プログラミングアプリで作った絵を動かす

光を灯して地域がつながる アートを楽しむ冬の風物詩

手作りのイルミネーションで地域がつながる冬のお祭りも
12年目となりました。今回のテーマは「アート&サーカス」。光
の動きを意識し、新しいプログラム作りにも挑戦しました。こ
れまで同様、公園の中心にメインのアート作品を配置し、近
隣の小中学校に通う子どもたちの作品をその周囲に飾ること
で、会場全体をアートで照らすことを計画。協力者やアイデア
を募るキックオフミーティングでは、「サーカス」に合わせて光
る物を身につけたパレードを実施することなどを決めました。

ブレイベントとして、関内外地区が運河によってつながる
イベント「よこはま運河チャレンジ」のうち、蒔田公園を会場と
した企画をNPO法人濱橋会を中心とした実行委員会と共催。
多くの人にイベントを知ってもらおうきっかけとなりました。

当日は、光るアート作品だけでなく地域のお店やアート
団体などによる屋台が並び、川に面した野外ステージでは
地元の音楽グループや吹奏楽部によるコンサートを開催し
ました。初日には、光る物を身につけた子どもやコスプレイ

ヤーが列をなして進み、そこにキッズダンスを組み合わせた
大岡川版「エレクトリカルパレード」を実施。実際に挑戦し
てみたことで、身につける光の量を増やすなど、さらなる
工夫の余地も見えてきました。また、プログラミングアプリを
使用し、タブレットで描いた絵を大きなスクリーンに投射し
て動かす企画は大人気で、通りすがりの人も気軽に創作
活動を楽しむ機会となりました。

運営面では屋台テントの組み立て、撤去を地元の青年
指導員に依頼したことで、準備と片付けがスムーズに進
みました。また、屋台の火元の見回りや警備を南消防団に
依頼したことで、会場の安全管理を徹底できただけでなく、
実行委員が他の役割に集中でき、当日運営の安定につな
がりました。

今後の目標は、首都高速道路橋脚に子どもが描いた絵
を投射する企画の復活です。クラウドファンディングなどを
活用し、自立的な運営を目指したいと考えています。

会期：2019年11月16日(土)～12月15日(日)

会場：蒔田公園

来場者数：8,500人

参加アーティスト：aburabito、ふじたおさむ、三好豊

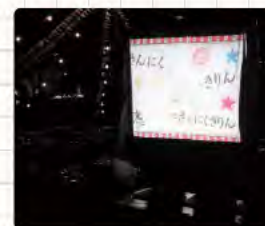
主催：大岡川アートプロジェクト実行委員会

協賛：公益社団法人神奈川県地建物取引業協会横浜南部支部、南区連合町内
会長連絡協議会、株式会社清光社、三徳エステート株式会社、株式会社平岡
電機工事、蒔田連合子ども会、株式会社グローバル横浜警備保障、株式会社
数嶋あらね嵯峨乃家本店、株式会社浅岡装飾、横浜市立蒔田小学校放課後
キッズクラブスタッフ、横浜市立日枝小学校放課後キッズクラブスタッフ、神奈川
ドライビングスクール、酒菜 源万、ばあら〜泉、カッセルカフェ、ルシェール、有限
会社ミナミファーマシー、旅館松島、鮎わかし、菓子工房カノン、南吉野町内会、
横浜市立日枝小学校、横浜市立南太田小学校放課後キッズクラブ、株式会社
横浜君嶋屋、ムツミ硝子有限会社、ブラッセリマルミット、音灯瑠璃、チーム三角

広報協力：横浜市交通局、株式会社タウンニュース社

協力：蒔田連合町内会、お三の宮地区連合町内会、吉野町町内会、太田地区町内
連合会、井土ヶ谷地区連合町内会、寿東部連合町内会、中村地区連合町内会、
堀ノ内・睦町連合町内会、蒔田公園愛護会、横浜市立蒔田中学校、横浜市立
共進中学校、南太田おやじの会、蒔田連合子ども会、大岡川リバーアクション、
まいたエコサロンの会、NPO法人Hama Bridge濱橋会、南消防団第3分団、
蒔田地区青少年指導員連絡協議会、神奈川県横浜川崎治水事務所、横浜市
環境創造局、横浜市南土木事務所、中村地区センター、横浜市吉野町市民プ
ラザ、男女共同参画センター横浜南(フォーラム南太田)、法人ABURABITO、
NPO法人竹もりの里、I LOVE YOKOHAMA、横浜市陸地域ケアプラザ、
NPO法人よこはま里山研究所～NORA(はまどま)～、株式会社太陽住建、
宮・宿・花1、2丁目町内会(順不同)
※そのほか、個人サポーターの方々

実施イベント
11月16日(土) ブレイベント
12月14日(土) 光のぷろむなあと2019
～12月15日(日)



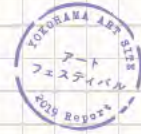
事前に集めた動物の絵を投影



光るボールを転がして楽しむ子ども



水辺の光コンサートで演奏する
日枝小金管バンド



金沢文庫芸術祭実行委員会

連絡先
URL <http://www.bunko-art.org>
E-MAIL info@bunko-art.org
TEL 045-788-9119
Facebook <https://www.facebook.com/bunkoart/>

団体紹介

「こどもの未来は地球の未来」をスローガンとし、年齢、職業、地域を問わず小学生からプロのアーティストまで様々なメンバー約30人で活動しています。参加者全てに新しい刺激を与え、地元の文化としてみんなから必要とされるイベントに育てたいと思います。



アートラリー ポレポレキャラバンライブ

地域の芸術祭を通して
子どもたちにチャレンジの機会を

海の公園で行われるフェスティバルをオープニングイベントとして、金沢区内のアートを盛り上げる芸術祭の21回目。継続して実施してきたことで、地域の風物詩としてのお祭り、アートを楽しむ場、自然との共存を考える場などいくつかの異なる要素がバランスよく混ざり合い、いろいろなコミュニティの人々がゆるやかにつながる機会として育ってきました。オープニングフェスティバル当日は、2つのステージと164の出展者、15の出展者企画でにぎわい、子ども大型絵画プロジェクトで作成したフラッグや横断幕がはためきました。今回は役割分担・作業工程の効率化を計り、スムーズな設営が実現しました。ノウハウが溜まったことで、一人ひとりが自主的に動けるようになったのだと実感しています。また、地元の雑貨店チャイハネ(アミナコレクション)とのコラボレーションの連携はより充実し、集客アップ、全体のクオリティアップにつながりました。今年度の新しい試みの一つは、サポーターズクラブの設

立です。これによって、実行委員として関わるのは難しくても芸術祭を応援したいという人々が、それぞれのペースで参加できる仕組みができました。さっそく30人の登録があり、多様な関わり方から生まれる厚みのある動きに期待しています。これまで自由で独立した運営のために、あえて大企業からの協賛金は募らず、顔の見える範囲の中で地元企業等に協賛をお願いしてきました。ところが現在の運営体制では、それぞれが別に本業を持っているため、挨拶やお礼のために平日の日中を確保することが難しい状況です。今後は、予算獲得のためのシステムを見直す必要性を感じています。また、フェスティバルが安定してきた一方、区内のアートスポットをつなぐアートラリーは、まだまだ発展の可能性を秘めています。スローガンである「こどもの未来は地球の未来」のためにも、次世代を育むまちの創造性を引き出していきたくと考えています。

会期：2019年7月1日(月)～10月14日(月)
会場：海の公園、アサバアートスクエア、ぼおぼ、文庫幼稚園 ほか
来場者数：33,200人

実施イベント
7月1日(月) 子ども大型絵画プロジェクト
～8月20日(火)
9月15日(日) オープニングフェスティバル
9月15日(日) アートラリー
～10月14日(月)

参加アーティスト：村山二郎、ロコサトシ、アフリカサカバ、RISO、ラセーニャス

主催：金沢文庫芸術祭実行委員会
共催：公益財団法人横浜市緑の協会、株式会社 アミナコレクション
後援：金沢区役所、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、横浜金沢観光協会、神奈川新聞社、FMヨコハマ、tvk
協賛：スーパー横濱屋 大連店、株式会社 ネオクリエーションズ、株式会社 ネオタクト、株式会社 ネオトラフィック、セレモホール金沢文庫、白山 東光禅寺、カフェギャラリー&窯 ぼおぼ、パレットプラザ金沢文庫、医療法人社団 森クリニック、山本助産院、株式会社 臨海サービス、金沢白百合幼稚園、カトリック金沢教会、風美容院、飯鉢 称名寺店、浜坂医院、金八家、株式会社 エッチャールディ、山田工業所、掛田商店、みなと旅館、ピース玉の世界 船山 政志、株式会社 ハウスレーベル、ふみくら茶屋、釣り船 進丸、山喜館、かわせみの庄
協力：愛と勇気とさんま実行委員会、BBSSS、Micro Tacs、M&N、SLOWNIN、三四音響、文庫幼稚園、横浜市立西栗小学校、横浜市立文庫小学校、横浜市立金沢小学校、横浜市立八景小学校、西栗団地自治会、京急キッズランド



ラセーニャスのスペシャルライブ



プレイパークの竹のジャングルジム



子どもの仮装衣装ファッションショー



神奈川県立図書館が20年間実施してきたコンクールが諸事情で休止となったのを惜しみ、存続を願う市民、企業等が協力して2000年に設立しました。会員は全国におり、コンクールの他、公演・講座の企画運営や広報誌の発行などにより、紙芝居を普及する活動をしています。

連絡先
URL <https://kamibunkyo.jimdofree.com/>
TEL 080-5504-6168



過去最高の応募数になった展示会場

20年かけて広がった 手づくり紙芝居の輪

国内外から作品を募集する手づくり紙芝居コンクールも、ついに20周年を迎えました。今年度は、「子どもへの紙芝居の一層の普及」を重点目標とした指導者研修や、コンクール応募者による実演イベントを開催しました。

今年度のコンクールは、アニバーサリーイヤーであることから応募数が例年以上に増え、過去最高となる334点の作品が集まりました。どれも力作揃いで、内容的にも技術的にも、20年の蓄積を感じられるものばかりです。記念冊子の特集では、多くの作品を発表した応募作家たちのメッセージを掲載。かつてジュニアの部に応募していた人たちからは、紙芝居作りがその後、自身にどのような影響を与えたのかというエピソードが多く語られ、読者からも大きな反響がありました。長く続けてきたからこそ届いた体験談であり、紙芝居の教育的効果を示す貴重な資料です。

指導者研修会では、全国から、子どもを対象としたさま

ざまな紙芝居の実践報告を集め、研修会の場で共有しました。予想以上にバラエティーに富んだ事例が集まったため、作成した資料は全国規模の学習会でも頒布。これをきっかけに、次の実践へつながることを期待しています。

また今年度は、コンクール会場のある西区・紅葉ヶ丘周辺から、これまで観客として来場していた方が初応募してくれたり、プロの作家からアドバイスがもらえる紙芝居クリニックや、実演イベントへの参加希望者が増え「手づくり紙芝居の伝える力の強さ」や「可能性」に期待する声が多く寄せられたりと、地道に広報してきた成果を感じました。

20年を節目に「今、何を目的としてコンクールを行うのか」を再考し、それに基づいて内容を精選していくことの必要性を感じています。今後は、資金の面でも運営の面でも、継続可能なコンクールとはどんなものかを模索していきたいと思えます。

会期：2019年7月11日(木)～12月10日(火)
会場：横浜市南図書館、横浜市市民活動支援センター、
神奈川県立青少年センター、神奈川県立図書館、
伊勢佐木倶楽部CROSS STREET

来場者数：1,509人

参加アーティスト：長野ヒデ子、やべみつりの、ときわひろみ、宮崎二美枝

主催：紙芝居文化推進協議会
共催：神奈川県立青少年センター、神奈川県立図書館
後援：神奈川県図書館協会、神奈川新聞社、子どもの文化研究所、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、横浜市文化観光局
協力：京浜急行電鉄株式会社、べんてる株式会社

実施イベント
7月11日(木) 手づくり紙芝居指導者研修&交流会
11月4日(月) 手づくり紙芝居ライブ①
11月17日(日) 手づくり紙芝居ライブ②
11月30日(土) あなたが主役の実演会
11月30日(土) 紙芝居クリニック
12月1日(日) 手づくり紙芝居コンクール本審査会
11月30日(土) 20周年コンクール記念冊子発行
11月30日(土) 全応募作品の展示会
～12月1日(日)
12月1日(日) 過去の入賞作品展示会
12月10日(火) 紙芝居イセザキ産特別公演



横浜市長賞は究極のしかけ「顔出し」



作家から甘口・辛口のアドバイス



ベトナムからもイベントに参加



審査員も大爆笑



黄金町BASE

団体紹介

2016年、アーティストの山田裕介、杉山孝貴、NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター元職員の水谷朋代、李智希の4人によって設立。どんな子どもでも自身の創造性を発露する場が必要である、という信念のもと、本事業を通して地域コミュニティの新たな在り方を提案します。

連絡先
E-MAIL koganechobase@gmail.com



黄金町BASE リニューアル 1F作業スペースの様子

地域のアーティストが運営する
子どもたちのアートな居場所

地域の子どもたちが国籍や家庭の状況に関わらず「ものづくり」に触れ、創造性を発露し、多様な価値を受け入れる居場所となることを目指すプロジェクト。今年度は地域から集められた廃材を使ったものづくりの場を週に2回運営するほか、カフェ営業も行う地域活動支援センター「ひふみ」での出張企画も行いました。

普段の活動場所になっているのは、アーティストのアトリエが並ぶ黄金町の一角。拠点の正面にある広場にブルーシートを敷き、放課後の小学生たちが自由に創作活動に打ち込める環境を生み出しました。校庭開放の対象にならない小学校の中学年を中心に、フラストレーションを発散させる場の一つとしても機能しています。

今年度は場の運営だけでなく、事業継続に向け、運営の基盤づくりにも力を入れました。まず取り組んだのは、拠点となるスタジオの整備です。これまで利用していた1Fに加えて、2Fを事務所スペースと、材料や出来上がった作品を

保管しておける場所として整備しました。1Fが広く使えるようになったことで、屋外での木工だけでなく屋内での絵画制作など、より子どもたちの創造性を活かした活動につながるかと期待しています。また、子どもたちが制作した作品をどのように取り扱うかという点については、これまで課題となっていました。こうして保管スペースを確保できたことは今後の展開を考える上で、大きな第一歩となりました。今回は、整備した拠点の公開と共に、ささやかな作品展示も行い、地域に活動を発信することができました。

出張企画では、地域の親子連れや「ひふみ」の利用者である精神障害のある人たちが集まり、アーティストと、それぞれの発想を活かしたものづくりを体験しました。ここで得られた実績やノウハウをもとに、新事業化していくことで、資金面での安定を図れればと考えています。

今後は、運営体制の強化と共に、作品を循環させる持続可能な仕組みについても検討を続けていきます。

会期：2019年7月5日(金)～2020年1月31日(金)
会場：1の1スタジオC(黄金町BASE)、地域活動支援センターひふみ
来場者数：526人

参加アーティスト：山田裕介、杉山孝貴、水谷朋代
主催：黄金町BASE
協力：認定NPO法人 黄金町エリアマネジメントセンター

- 実施イベント
- 7月5日(金)～7月6日(土)、7月12日(金)～7月13日(土)、7月19日(金)～7月20日(土)、7月26日(金)～7月27日(土)
 - 8月2日(金)、8月9日(金)～8月10日(土)、8月16日(金)～8月17日(土)、8月23日(金)～8月24日(土)、8月30日(金)～8月31日(土)
 - 9月6日(金)～9月7日(土)、9月13日(金)～9月14日(土)、9月20日(金)～9月21日(土)、9月27日(金)～9月28日(土)
 - 10月4日(金)～10月5日(土)、10月11日(金)～10月12日(土)、10月18日(金)～10月19日(土)、10月25日(金)～10月26日(土)
 - 11月1日(金)～11月2日(土)、11月8日(金)～11月9日(土)、11月15日(金)～11月16日(土)、11月22日(金)～11月23日(土)、11月29日(金)～11月30日(土)
 - 12月6日(金)～12月7日(土)、12月13日(金)～12月14日(土)、12月20日(金)～12月21日(土)、12月27日(金)～12月28日(土)
 - 1月10日(金)～1月11日(土)、1月24日(金)～1月25日(土)、1月31日(金)
 - 7月25日(木)、8月20日(火)、9月26日(木)、10月17日(木)、11月21日(木)
- 黄金町BASE
出張BASE「ひふみBASE」



黄金町BASE実施風景



黄金町BASE実施風景



黄金町BASE 実施風景



黄金町BASE実施風景



ココロはずむアート展実行委員会

連絡先
E-MAIL midori-fukusi@blue.ocn.ne.jp

団体紹介

障害がある方が作るアート作品と、アーティストとしての障害のある方を地域の方に紹介する展覧会を2011年から毎年開催しています。趣旨に賛同する有志が実行委員となり、障害のある方が働く場に展覧会という仕掛けで人を招き入れる工夫を模索しています。



アート屋わんど

アート作品の巡回展を通して
北部エリアの福祉施設がつながる

横浜市北部の福祉施設・団体が連携した巡回展の9回目。参加団体も増え、少しずつ活動の輪が広がっているのを感じます。事業所ごとに作家活動を行う利用者の割合は異なりますが、2018年度の展示作品をまとめた冊子が、活動の周知と資金調達に役立ちました。

美術展は5会場を巡回し、作品だけでなく、各作家を紹介するカードも展示しました。その他、障害のある作家本人と職員によるトークセッション「作家が語る、作家を語る」や、会場での制作実演、ワークショップも実施。関係者にとっては、普段なかなか目にしない他施設の状況を知る機会となり、ネットワーク形成の場としても機能しました。

カブカブ川和での展示期間にはケアプラザや地区社会福祉協議会、高齢者施設や商店街とコラボレーションが生まれました。障害者と高齢者の作品が互いの事業所に展示されたり、特別養護老人ホームで共催イベントが行われたりと今まで行ってきた地域と連携した取組の中でも、最も

可能性を感じられるものになりました。

カブカブ竹山で行ったアートワークショップでは、段ボールを材料にした額縁を作成。日々の営みから生まれた創作物にフレームを与えることで、アート作品として鑑賞する視点を提案しました。美術家の進行をサポートするかたちで施設職員がコーディネーターとして参加し、利用者と地域の参加者をゆるやかにつなぐことで、その場に一体感を生み出しました。自分たちの施設が展示会場になる機会は、参加作家や利用者だけでなく、職員にとっても新鮮な刺激を与えたようです。

事業継続に関して、1番の課題となっているのは自己資金の不足です。継続的な開催のためには助成金だけでは足りない資金調達の方法を考えなければなりません。今後は、地域の他のイベントとの積極的な連携や、今までは出来ていなかった企業との協働を目標として、地域での認知度を高め、活動資金の調達を図り、継続して事業の目的を達成していきたいと思っています。

会期：2019年9月4日(水)～12月13日(金)
会場：スペースナナ、カブカブ川和、ハートフルガーデン川和、カブカブ竹山、アート屋わんど、えだ福祉ホーム
来場者数：566人

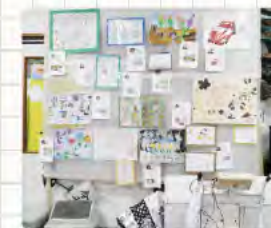
参加アーティスト：中畝常雄、深澤実穂、源田航大、石丸由里子、天野保隆ほか

主催：ココロはずむアート展実行委員会

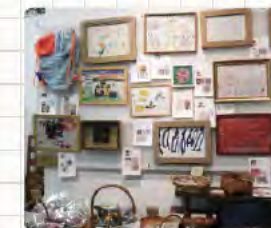
協力：スペースナナ、カブカブ川和、アート屋わんど、カブカブ竹山、えだ福祉ホーム、みどり福祉ホーム、グリーン、コクーン、つたのは学園、桃の実、ワーク中川、織人

実施イベント

9月4日(水) ココはず@スペースナナ
～9月22日(日)
9月8日(日) 作家を語る・作家が語る
9月20日(金) 作家の実演
9月25日(水) ココはず@カブカブ川和
～10月11日(金)
9月28日(土) 人形ワークショップ
10月6日(日) 川和の日
10月17日(木) ココはず@カブカブ竹山
～11月1日(金)
10月19日(土) アートワークショップ
10月22日(火) 作家の実演
10月29日(火) 作家の実演
11月7日(木) ココはず@アート屋わんど
～11月22日(金)
11月13日(水) 作家の実演
11月27日(水) ココはず@えだ福祉ホーム
～12月13日(金)



えだ福祉ホーム



カブカブ竹山



カブカブ川和



さかえegaoプロジェクト

連絡先
URL <http://ega-oproject.com/contents/top.html>
E-MAIL chikatuegao@wind.ocn.ne.jp
TEL 045-392-7601
Facebook <https://www.facebook.com/sakaeeegaoproject/>
Twitter @egaopj1

団体紹介

栄区内の福祉事業所アーティストがアートを楽しみながら作品を作り販売しています。年に一回栄公会堂をアートで全館装飾するイベントも行っています。



公募した作品は個性豊かに会場を彩った

アーティストと福祉事業所の出会いから
みんなで作るアートのお祭り

今回も地域の人々にアートの楽しさを伝え、アートを通してつながることを目標に、アーティストによるワークショップの実施、福祉事業所とアーティストの共同制作を経て、アートフェスティバルを開催しました。

美術家・竹本真紀さんによる事前ワークショップでは、地域の人々がカッティングシートを使ったカラフルな魚を創作。魚型のシートを土台に、好きな色、形のシートを貼り重ねることで、一人ひとりの個性が詰まったオリジナルの魚たちが完成しました。

We×Artist企画では、6つの福祉事業所や特別支援学校などにそれぞれ異なるアーティストが出向き、身の回りにある素材を使って作品を作り上げました。障害のある人々にとって、慣れた場所や、日頃から親しみのある素材を利用することは、安心して創作に取り組むために、とても重要な要素です。また、プロジェクトの企画運営を通して、複数の福祉事業所や団体の結びつきも、より強くなりました。

今年度のテーマは「HOME」。みんなが笑顔になれる「自由なアート作品展」として、市民からの作品も募集しました。当日は、公会堂を水の中に見立てた装飾を行い、作品展示だけでなく、ワークショップや物販ブース、ステージパフォーマンスで会場全体を盛り上げました。吹き抜けを囲むガラス面には、ワークショップで作った魚たちが泳いでいます。訪れた人々が、自分の作った魚を探して写真を撮っている場面もありました。

事業を継続してきたことで、少しずつ仲間も増え、プロジェクトとしてのまとまりが生まれてきました。デザイナーと福祉事業所の協働によりオリジナル製品を生み出す試みから生まれた本プロジェクトですが、アートの意義や可能性についてさらに考えを深め、今後の方向性を探る必要を感じています。また、地域での認知度向上についてはまだ課題が残ります。活動を多くの人に知ってもらうためには、どのような発信が効果的か、検証を続けていきたいと思っています。

会期：2019年7月13日(土)～2020年1月25日(土)
会場：本郷台駅前、いたち川、神奈川県立柏陽高校、上郷地区センター、横浜市立本郷中学校、わ〜くらぶ・さかえ、横浜市立本郷特別支援学校、栄区生活支援センター、朋第2・すべすもも、地域作業所まってる、横浜市立豊田小学校個別支援学級、栄公会堂

来場者数：933人

参加アーティスト：竹本真紀、海淵恵里、松本光世、石黒陽子、栗原俊子、高橋寛行、ASADA、岡典明、石黒和夫、堀江和真、地域活動支援センターegao、川本みつ子

主催：さかえegaoプロジェクト
後援：栄区役所

実施イベント
7月13日(土)、
8月18日(日)、
9月30日(月)、
11月23日(土)
ミニegaoフェスティバル
11月2日(土)
We×Artist わ〜くらぶ・さかえ×堀江
11月28日(木)
We×Artist 本郷特別支援学校×岡典明
12月10日(火)、
12月17日(火)
We×Artist 栄区生活支援センター×川本
12月6日(金)、
12月18日(水)、
12月26日(木)、
1月17日(金)
We×Artist 朋第2・もも×石黒和夫
12月15日(日)、
1月10日(金)
We×Artist まってる×石黒陽子
11月13日(水)、
12月15日(日)
We×Artist
12月18日(水)
豊田小学校個別支援学級×地活egao
～12月20日(金)、
12月23日(月)
～12月24日(火)
1月22日(水)
egaoフェスティバル作品展示
～1月24日(金)
1月25日(土)
egaoフェスティバル



ミニegaoフェスティバルを行い
取組を知ってもらう機会を作った



夏からスタートした魚をつくる
ワークショップ



パフォーマンスも
会場をいっぱいにして盛り上げた



当日のワークショップは
たくさんの人で賑わった



NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと

連絡先
URL <http://ashiato-dagakki.jp/>
E-MAIL info@ashiato-dagakki.jp
TEL 03-3762-6335
Facebook <https://www.facebook.com/ashiato.dagakki/>

団体紹介

「子どもたちに生の音楽を」をモットーに東京芸術大学卒の池野ひとみを中心に2001年結成。のべ400カ所、4万人の子どもたちに打楽器の参加型のコンサートを行っています。横浜市内のみならず、被災者支援演奏など全国巡回中。2013年NPO法人化。



地域全体で見守る子育て

オリジナル楽器づくりと
打楽器コンサートで子育てをサポート

音楽を通して、さまざまな環境の中で子育てをしている親や保育者を支援していく活動は、今年度も少しずつ広がりを見せました。親子で参加するオリジナル打楽器づくりワークショップとコンサートでは、音楽の力と打楽器の魅力によって大人も子どももそれぞれがリラックスできる空間を作り、いつもとは違う親子のコミュニケーションのかたちを提示しました。工作の要素もあり、子ども以上に熱中する大人の姿は、本人にも子どもにも新鮮な刺激となったようです。2年目の試みとなる母親のためのコンサートは、気楽に楽しめるカフェコンサートというイメージが定着し、成功を収めました。参加者をグループに分けてパートを割り振り、全員で童謡を合奏する時間では、自宅で楽しめる簡単な伴奏もレクチャーしました。

イベント会場では、マザーズハローワークのチラシを配布。また、各地の子育て支援拠点やケアプラザを会場とすることで、地域の中で子育て仲間や相談先を見つける

きっかけとなることを狙いました。その他、児童福祉施設や障害児の親の会など、イベントに出かけていくことが難しいコミュニティへの出張公演も行いました。

運営自立化のためのステップとして、初めての試みである商業施設とのコラボレーション企画を実施。エンタランスでコンサートを実施し、多くの観客に活動をアピールすることができました。一方、大規模組織とのやり取りでは、お互いの特色を生かす提案と臨機応変な対応が必要不可欠であると痛感しました。

さまざまな団体・施設と協働を重ねてきたことで、認知度も向上し、関係は深まっています。一般的なコンサートに出かけていくことの難しい層にこそ音楽を届けたいという思いを持つ一方、資金面がハードルとなって対応しきれないことがあるのも事実です。また、助成金だけを頼りにした体制への危機感も感じています。今後も継続して、企業とのビジネスマッチングの可能性を模索していきます。

会期：2019年7月23日(火)～2020年1月31日(金)

会場：聖母愛児園、横浜市中区子育て支援拠点のんびりんこ、神奈川県立こども医療センター、ひよこの会、横浜市下倉田地域ケアプラザ、横浜市立舞岡小学校放課後キッズクラブ、睦母子生活支援施設、竹之丸地区センター、浦舟地域ケアプラザ、横浜市立南吉田小学校放課後キッズクラブ、IKEA港北、二ツ橋第二地域ケアプラザ、みなみ青少年地域活動拠点ハートフルみなみ、横浜市港北区子育て支援拠点とろっぷサテライト、新山下二丁目保育所、横浜こどもみらい、いずみ野地域ケアプラザ、横浜市立平戸小学校放課後キッズクラブ、横浜市新山下地域ケアプラザ、今井地域ケアプラザ

来場者数：1,044人

参加アーティスト：池野ひとみ、半谷麻意子、神本愛子、浜谷安里

主催：NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと

共同主催：新山下地域ケアプラザ、いずみ野地域ケアプラザ、二ツ橋第二地域ケアプラザ、横浜市立平戸小学校放課後キッズクラブ、ひよこの会、IKEA港北

共催：神奈川県立こども医療センター、みなみ青少年地域活動拠点ハートフルみなみ、こどもみらい横浜、竹之丸地区センター、浦舟地域ケアプラザ、下倉田地域ケアプラザ、下倉田社会福祉協議会、横浜市中区地域子育て支援拠点「のんびりんこ」、横浜市港北区子育て支援拠点とろっぷサテライト、横浜市立舞岡小学校放課後キッズクラブ、横浜市立南吉田小学校放課後キッズクラブ、睦母子生活支援施設、新山下二丁目保育所、今井地域ケアプラザ、今井地区センター

協力：聖母愛児園、和泉港北子育てネットワーク、はーとばっば

実施イベント	実施日時	実施会場
こころに響く打楽器つくっちゃお♪	7月23日(火)	こころに響く打楽器つくっちゃお♪
こころに響く打楽器つくっちゃお♪	9月14日(土)	こころに響く打楽器つくっちゃお♪
こころに響く打楽器つくっちゃお♪	9月15日(日)	こころに響く打楽器つくっちゃお♪
こころに響く打楽器つくっちゃお♪	9月22日(日)	こころに響く打楽器つくっちゃお♪
こころに響く打楽器つくっちゃお♪	10月9日(水)	こころに響く打楽器つくっちゃお♪
こころに響く打楽器つくっちゃお♪	10月31日(木)	こころに響く打楽器つくっちゃお♪
こころに響く打楽器つくっちゃお♪	11月13日(水)	こころに響く打楽器つくっちゃお♪
こころに響く打楽器つくっちゃお♪	11月24日(日)	こころに響く打楽器つくっちゃお♪
mamaコンサート	11月28日(木)	mamaコンサート
mamaコンサート	11月29日(金)	mamaコンサート
こころに響く打楽器つくっちゃお♪	1月8日(水)	こころに響く打楽器つくっちゃお♪
こころに響く打楽器つくっちゃお♪	1月12日(日)	こころに響く打楽器つくっちゃお♪
こころに響く打楽器つくっちゃお♪	1月13日(月)	こころに響く打楽器つくっちゃお♪
こころに響く打楽器つくっちゃお♪	1月14日(火)	こころに響く打楽器つくっちゃお♪
mamaコンサート	1月16日(木)	mamaコンサート
こころに響く打楽器つくっちゃお♪	1月23日(木)	こころに響く打楽器つくっちゃお♪
こころに響く打楽器つくっちゃお♪	1月25日(土)	こころに響く打楽器つくっちゃお♪
こころに響く打楽器つくっちゃお♪	～1月27日(月)	こころに響く打楽器つくっちゃお♪
mamaコンサート	1月29日(水)	mamaコンサート
mamaコンサート	1月31日(金)	mamaコンサート



親子で楽器体験



企業とのコラボレーション



オリジナル楽器を作って



都筑アートプロジェクト

連絡先
URL <http://tsuzukiart.p2.weblife.me/>
E-MAIL tsuzukiartproject.jimukyoku@gmail.com
TEL 045-974-1363
Facebook <https://www.facebook.com/TsuzukiArt/>
Twitter @TsuzukiArt

団体紹介

横浜市北部を中心に活動。地域の風景や歴史にアートの視点で関わり、そこに表現を与えて行く活動を通して、地域内外にその場所の面白さを伝え、文化交流の拠点をつくることを目的とした団体です。



展示 タナベルン 作品 撮影者/松本力

恩田川沿いのギャラリーで
作家の目を通して地域と出会う

旧都筑郡を舞台に、アートを通して土地の記憶にアクセスするアートプロジェクトの14年目。今回は青葉区・こどもの国を軸に全体を構成し、そこから地域の歴史や物語を再発見し、共有するというを試みました。活動は、リサーチ及びリサーチ展、レクチャーやアートツアーを含む展覧会、共同制作の3つで構成され、それぞれの企画が補完し合いながら広がりを持つことを狙いました。

こどもの国は、多摩丘陵の雑木林をそのまま生かした自然の遊び場であり、戦時中には旧陸軍田奈部隊の弾薬庫でした。アーティストによるリサーチでは、実地調査をはじめ、学徒動員で田奈部隊に配属された方へのインタビュー、国立近現代建築資料館に収蔵されているこどもの国建設時の図面などの資料調査など、さまざまな角度からその歴史に迫りました。

レクチャーでは、地域の発掘調査から見えてくる歴史や、園内に作品群が残るイサムノグチについて、近現代の建築に対

する問題提起を含む建築論、田奈部隊建設に多数の朝鮮人が関わったつながりでの韓国の民衆美術論など「こどもの国から見えてくるもの」をテーマに、幅広いトピックを扱いました。また、美術家による富士塚ツアーでは、こどもの国近くの住吉神社裏に新たな富士塚跡を発見したり、横浜美術館の学芸員を招いての「弾薬庫とイサムノグチ」を見るツアーを実施したりと、これまでない展開も生まれました。

作品展示では、参加した作家それぞれが、調査や体験を活かした多様な作品を生み出し、見る人にさまざまな問いを投げかけました。これまでの課題であった地域との協働という部分では「みどり・まちかど動物園・アートベンチ計画」が実を結び、区内に設置されるベンチのデザイン制作を行いました。

今回は充実したプログラムを実現できた一方、運営能力とのバランスには課題が残っています。今後は、地域との関係をより深めるためにも、じっくりと企画を育てていきたいと考えています。

会期：2019年9月14日(土)～12月8日(日)
会場：ArtSpace 赤い家、緑区民文化センター みどりアートパーク
来場者数：521人

参加アーティスト：新江千代、有坂碧子、今井紀彰、樺草丁、岡典明、金井聡和、タナベルン、とし田三津夫、橋村至星、松本力、若宮綾子

主催：都筑アートプロジェクト
共催：緑区民文化センター みどりアートパーク

実施イベント
9月14日(土) リサーチ展
～9月16日(月)
9月14日(土) ワークショップ「アートベンチをつくらう!」
9月14日(土) レクチャー「イサムノグチとこどもの遊具」
11月2日(土) 田んぼの向こうのこどもの国 展
～11月4日(月)、
11月9日(土)、
～11月11日(月)、
11月16日(土)
～11月18日(月)
11月2日(土) レクチャー「作るよるこび」
11月2日(土) レセプション+ライブこどものはなし
11月3日(日) 死者の日カフェ
11月4日(月) 富士塚ツアー ツアーフジツカ2019
11月9日(土) レクチャー「韓国の民衆美術」
11月10日(日) レクチャー「ほら穴的なものとイサムノグチ」
11月16日(土) レクチャー「土の中からこどもの国周辺を探る」
11月17日(日) アートツアー「こどもの国 文化遺産をめぐる小さな旅」
11月30日(土) リサーチ展+α
～12月8日(日)



富士塚ツアー 恩田富士跡
撮影者/金井聡和



展示 新谷千代 作品
撮影者/金井聡和



アートツアー「こどもの国
文化遺産をめぐる小さな旅」
撮影者/奥野美果



アートベンチ ワークショップ
撮影者/金井聡和



ティーンズクリエイション組織委員会

連絡先
URL <http://www.sakae-art.jp>
TEL 045-898-1400 (フレンズ☆SAKAE/
火・水・金 15:00~20:00 | 土 10:00~18:00)
E-MAIL sakae.art2008@gmail.com
Facebook <https://www.facebook.com/sakaedetsunagaruart/>

団体紹介

「ティーンズクリエイション展2017」を機に有志の市民グループを結成。アートや地域活動団体メンバー、施設職員、学校関係者、クリエイター、高校生等、幅広い年代の多彩な人々で構成されている団体です。「人々が立場を越えてつながり、地域で豊かな体験のできる機会を」の思いで活動しています。



展示会場

一人ひとりの「やりたい」を引き出す
わかものなんでもふんかさい

中高生世代の「わかもの」による文化作品の発表の場。今年度は、作品展示だけでなく関連イベントも同じ会場で行うことでそれぞれの企画を連動させ、一体感を生み出すことを狙いました。

ギャラリーでの作品展示には市内だけでなく、神奈川県内外からも応募があり、最終的には254点の作品が集まりました。個人の創作物のほか、サークルやアトリエの作品、近隣の学校からは授業や部活での成果物など、制作背景もジャンルもさまざまです。友好交流都市である青森県南部町と栄区の子どもたちが同じ画面構成で描いた「つながる絵」作品も出展され、量だけでなく内容も豊かな展示となりました。

また、今年度は作品応募者の希望から、エレクトーンをギャラリーで演奏をする企画が誕生。生演奏をBGMに展示を楽しめるという今までにない新たな展開につながりました。音楽の取組では、他にもレゲエシンガー・CHAN-MIKAによる歌のワークショップを3回実施。栄区青少年の

地域活動拠点「フレンズ☆SAKAE」で活動する生徒など15人が、発表向け練習を重ねました。そのほか、準備を進める中で生まれたのが、地域で劇団を主宰していた木暮寿子さんの脚本・演出によるオリジナル朗読劇です。出演者である高校生たちの言葉から生まれたセリフは、作品の臨場感を高めました。

トークセッションは、自分たちの地域活動についての疑問やジレンマを共有し、深めたいという地域の若者たちが企画。市内の若手NPO職員をゲストに招き、会場と一緒に考え、意見交換する時間となりました。

2017年から続けている、若年層と共にを行う企画運営も3年目。今年度は高校生世代が、それぞれの興味を生かして企画に取り組み、実施につながりました。学校生活とは異なる関係性の中で一人ひとりが自らの役割を考え、社会と関わる場として機能し始めています。今後も引き続き、さまざまな立場の人々と協働して事業を進めていきたいと思ひます。

会期：2019年10月19日(土)～12月15日(日)
会場：栄区青少年の地域活動拠点「フレンズ☆SAKAE」、
さんばみち～アートdeスマイル、栄区民文化センター
リリス ギャラリー
来場者数：646人

参加アーティスト：佐藤良仁、CHAN-MIKA、竹本真紀、木暮寿子、鈴木ゆり

主催：ティーンズクリエイション組織委員会
共催：さかえdeつながるアート、栄区青少年の地域活動拠点「フレンズ☆SAKAE」、
SAKAE NEXT PROJECT、公益社団法人かながわデザイン機構、横浜市立
桂台中学校「地域交流奮オレンジの会」、栄区民文化センターリリス
後援：横浜市栄区
協賛：石井造園株式会社、公益社団法人かながわデザイン機構、株式会社 山響
楽器店、株式会社ヤマハミュージックジャパン、株式会社ダイショー
協力：横浜市栄区中学校長会、横浜市立本郷特別支援学校、神奈川県立地球市民
かながわプラザ「あーすぶらざ」、くらしまちづくりネットワーク横浜、株式会社
タウンニュース社、J:COM

実施イベント
10月19日(土)、
11月9日(土)、
11月23日(土)
12月11日(水)
～12月15日(日)
12月14日(土)
12月14日(土)
12月14日(土)
～12月15日(日)
12月15日(日)
12月15日(日)

CAN-MIKAワークショップ
Wakamono Arts Festival2019
岩手県立大徳高校復興研究会の活動について
CAN-MIKAワークショップ歌の発表&ミニライブ
エレクトーン@ギャラリー
朗読劇「その時 私は・・・」
トークセッション「若者VS地域」

CHAN-MIKAと若者の
歌の発表&ライブ

エレクトーン@ギャラリー



朗読劇「その時 私は・・・」



2015年から商店街主催の反町フェスタが、地域の町内会長等からなる東横フラワー緑道フェスタ実行委員会に移行し現在にいたります。フリーマーケット主体で始まったイベントにさまざまな要素をとり入れ、幅広く地域の方々とふれあいを大事にしています。

連絡先
E-MAIL papa3110t@gmail.com
Facebook https://www.facebook.com/toyokoflowerryokudofes/



えいぞうワークショップ

地域の資源である緑道で 子どもに向けた文化体験

東白楽から横浜までをつなぐ、旧東横線を活用したプロムナード「東横フラワー緑道」をアートで活かし、地域活性につなげるプロジェクト。今年度は、緑道内にあるトンネルでの映像ワークショップや、竹灯籠づくりを企画しました。

映像ワークショップでは、集まった小学生に対し簡単なレクチャーを実施。撮影のルールなどを教えた後は、子どもたちの創造性に任せました。当日はトンネル内で、別イベントが開催されていたため、子どもたちはイベントの様子を撮影したり、堂々とした様子でインタビューを行ったりと、それぞれ趣向を凝らした映像作品を制作しました。今回撮影した映像は、今後、上映の機会を探っていく予定です。

また、熊本を拠点に制作活動をしている「CHIKAKEN」にワークショップを依頼し、放置竹林から伐り出された間伐材を利用した竹灯籠ワークショップを実施しました。ワークショップでは、一節ずつ切り分けた竹に図案を貼りつけ、電動ドリルで穴を開けていきます。悪天候のため急遽テント

内の実施となったことは残念ですが、参加した子どもたちは、真剣な面持ちで取り組んでおり、歴史ある伝統工芸に触れる貴重な機会となりました。当初はトンネル内での点灯・展示を計画していましたが、ワークショップの様子を見て、途中から参加を希望する子どもが集まったこともあり、今年度は制作の方を優先しました。

日本の伝統的な文化芸術に触れる企画としては、他にも2015年から交流を行っている長野県飯田市の人形浄瑠璃「今田人形芝居」が出張公演を行う際、地域住民向けの体験講座を依頼しました。3人一組で人形を操作するのですが、参加者からは「意外と重いんだね」「3人の息を合わせるのが難しい」などのリアクションがありました。

初めてのアートイベント企画・運営には苦労も多く、特定のコミュニティとつながることの重要性に気付きました。少しずつ運営のノウハウを学び、緑道から地域を盛り上げていきたいと思っています。

会期：2019年10月5日(土)～11月23日(土)
会場：横浜市立青木小学校、東横フラワー緑道
来場者数：50人

参加アーティスト：森康祐、後藤咲生

主催：東横フラワー緑道フェスタ実行委員会
後援：神奈川県役所、反町駅前通り商店街
協力：横浜市立青木小学校

実施イベント
10月5日(土) 今田人形浄瑠璃ワークショップ
11月23日(土) 竹あかりワークショップ
11月23日(土) えいぞうワークショップ



えいぞうワークショップ



今田人形浄瑠璃



今田人形浄瑠璃



竹あかりワークショップ

Picture This Japan 2019: 横浜インターナショナルユース フォトプロジェクト



Picture This Japan

連絡先
URL <http://www.picturethisjapan.com>
E-mail ptj1yokohama@gmail.com
Facebook <https://www.facebook.com/picturethisjapan/>

団体紹介

人権活動や子どもの支援をしてきた写真家と写真好きが集まり、社会的に声の小さい人達にカメラを持たせ、彼等の思いを写して写真展を開催することで、見えにくい社会の側面を可視化し、様々な社会的課題について関心ある人を増やしたいと活動しています。



写真展@あーすぶらざ 撮影者/大藪順子

外国につながるティーンエイジャーの 視点と出会う写真展

4度目となる今回は、外国につながる9名の中学生、高校生が参加し、写真を通じた表現を模索しました。参加者とボランティアの大人たちは、偶然にも全員異なる国につながっており、これまでさまざまなコミュニティにアプローチを重ねてきたことが、こうしたグローバルな顔ぶれにつながったのだと実感しています。

今回の参加者は高校生の割合が高く、思いを写真で表現するということを理解し、真面目に取り組む姿は中学生たちに影響を与えていました。子どもたちは月2回の撮影ワークショップで、毎回異なる課題に挑戦。どれも、自由で個性がよく表れた作品となりました。

今年度はボランティア養成のため、大人向けの講座「Picture Talks」も開催し、メディア倫理や思いを写す表現としての写真について講義を行いました。外国につながる子ども支援に強い思いを持つ人や、言語学の大学教授、写真で社会貢献をしたい人などが集まり、子どもたちと同じ課題

に取り組みました。最終発表の場である写真展には大人も一枚ずつ作品を提出。子どもたちの作品と並んで展示されている自分の作品を見た参加者は、大人の作品はどこか型にはまっている、染みついた固定観念などから自分を解放することが必要なのではないかと学びを得たようです。

写真展のオープニングセレモニーは高校生が指揮をとり、爽やかな会となりました。また、参加者と保護者が積極的に展示準備や片づけに参加してくれたことは実施の大きな助けになりました。安定的な運営のためにも、参加者だけでなく、保護者との関係づくりを行う重要性を改めて感じました。

今年度の取組を通して、事業継続のための人材育成ができたことはうれしい成果です。特に、外国につながる子どもを支援する中で、英語圏、中国語圏の大人たちの参加は、これから大きな力になると予想されます。今後は、インターナショナルスクールへのデリバリー講座など、活動の幅を広げていきたいと考えています。

会期:2019年7月1日(月)~2020年1月30日(木)
会場:なかに区民活動センター、象の鼻テラス、神奈川県立地球市民かながわプラザ(あーすぶらざ)、中華学院
来場者数:13,789人

参加アーティスト:大藪順子、鎌田晋明、Renata Jaroscakova、張志臣、Patrick McNeal、Dennis Yang、長谷川ケイト、Habeeba Siddik、Khan Sawaiz、城間メリッサ、Pavlo Olenchuk、Ellica McNeal、Emilia Thomas、Jan Ratajczak、関口勝己、おとな講座参加者14名(Sofia Kartika、Raju Mankani、Vaneeta Rangwani、廣野美佳子、古川敏明、三坂恵子、小池美恵子、平田理子、伊東淳一、大塚義人、佐野友美、深谷有基、大谷雅俊、松田ユリ子)

主催:Picture This Japan
協賛:Photo Yokohama
協力:なかに区民活動センター、象の鼻テラス、神奈川県立地球市民かながわプラザ(あーすぶらざ)

実施イベント	実施日時
PTJスタッフミーティング	7月1日(月)、7月24日(水)、8月2日(金)、8月22日(木)、8月25日(日)、9月8日(日)、9月22日(日)、10月6日(日)、10月27日(日)、11月10日(日)、11月24日(日)、12月8日(日)
中高生フォトワークショップ	9月1日(日)、9月29日(日)、10月13日(日)、11月3日(日)、12月1日(日)
ボランティア養成講座Picture Talks	10月30日(水)、11月20日(水)、12月4日(水)、1月15日(水)、1月30日(木)
講師派遣講座	1月10日(金)
写真展①準備	1月11日(土)
写真展①開催	~1月19日(日)
写真展オープニング	1月11日(土)
写真展①撤収	1月19日(日)
写真展②設営	1月19日(日)
写真展②開催	1月20日(月)
写真展②撤収	~1月30日(木)、1月30日(木)



ワークショップ撮影会
撮影者/Renata Jaroscakova



ボランティア養成講座
Picture Talksの様子
撮影者/鎌田晋明



写真展@象の鼻テラス
撮影者/大藪順子

未来に繋ごう、みんなの!!横浜の!!
歴史・文化・芸術!!
～ 美術品修復プロジェクト～



特定非営利活動法人
美術保存修復センター横浜

連絡先
URL <https://www.npo-acrc.org>
E-mail yokohama@npo-acrc.org
TEL 045-231-6006

団体紹介

横浜を中心に美術館・法人・個人・教会など西洋画に限らず、日本画や掛軸、仏像の修復も行っております。また、修復を皆さんに知っていただくため、修復展や修復教室なども開催し、毎年イタリアへ出向き現地でも修復しています。



クリーニングワークショップ(公募の横浜市民の皆さんと)

60年の時を越えて
市民の手でよみがえる美術作品

日本ではなじみの薄い美術品の修復文化に親しむため、市民と共に公開作業を行う取組の一年目。今回は、横浜市開港記念会館に飾られている一枚の絵の修復作業を行いました。これは猪瀬踏花による「港内」という作品で、1961年に寄贈された約145センチ×112センチほどの油彩画です。横浜港大さん橋周辺の景色が描かれており、汚れにより全体的に黄みがかった風合いとなっていました。

当初の予定では、次世代教育として児童・生徒の参加を想定していましたが、募集時期が夏休みと重なったこともあり、残念ながら今回は応募にはつながりませんでした。この点については、夏休み中の修復ワークショップを検討するなど、次年度以降の課題としていきたいと思っております。一般参加者は10人の応募があり、小規模ながらも、絵の大きさに対しては適正な人数での実施となりました。

油彩画の修復には多くのステップがありますが、今回は参加者と共に水溶性の汚れを除去しました。絵を細かくブ

ロック分けし、溶液に浸した綿棒で表面を撫でることを繰り返します。次第にくすみが消え、下から鮮やかな青空や海の色が現れると、参加者からは驚きの声があがりました。台風のため、ワークショップは1日のみの開催となってしまったことは心残りですが、その後も工房内での修復作業を経て、無事に元の場所に設置することができました。

保存修復という文化が根付いていない国内において、市民が公共施設に飾られている絵の修復作業を体験するという試みは珍しいものです。継続的に事業を進めていくことが、文化継承の土台づくりにつながると思っています。また、横浜のあちこちに眠っていると思われる修復すべき絵を探すことにも挑戦していく予定です。学校に寄贈されている絵など、なかなか外部からは知られず、適切な処置がなされないまま経年劣化してしまう絵を保存修復していくためにも、活動を継続し、認知度を向上させていきたいと考えています。

会期:2019年10月8日(火)～12月3日(火)
会場:横浜市開港記念会館、美術保存修復センター横浜
工房
来場者数:53人

参加アーティスト:大西章夫、内藤朝子、貝塚建、斉藤りょう、植松美樹、大森央、齋藤藤子、相澤いくえ、近藤和枝、千葉裕子、新宮明子、石井智子、大戸由美子、鈴木亜矢子、福田倫子

主催:特定非営利活動法人美術保存修復センター横浜
後援:中区役所、横浜市芸術文化振興財団、神奈川新聞社、tvk

実施イベント
10月8日(火) 絵画取り外し・撮影・調査
10月8日(火) クリーニング
11月2日(土) 修復ワークショップ
11月8日(金) 表打ち
11月14日(木) 裏面掃除
11月19日(火) ストリップ・熱圧着
11月27日(水) 額装・撮影
12月3日(火) 納品



修復完了・再設置



表打ち(作業中に絵が傷つかないように和紙で保護)



絵の取り外し



クリーニングワークショップ
(公募の横浜市民の皆さんと)



熱圧着(絵具層の固着強化)



病院と地域の協働による
おまつり実行委員会

連絡先
E-mail n7asami@nifty.com
TEL 045-548-5742

団体紹介

病院で行われるお祭りを企画、実施することを目的とした実行委員会。実行委員は精神保健福祉に関わるさまざまな立場の人たち(精神障害当事者、支援者、病院スタッフなど)で構成されています。



夏だ!海だ!ディスコde盆

会期:2019年8月23日(金)~10月25日(金)

会場:エニタイム、紫雲会横浜病院

来場者数:320人

参加アーティスト:西井夕紀子、アボカズヒロ、長峰真貴

主催:病院と地域の協働によるおまつり実行委員会

共催:紫雲会横浜病院

協力:横浜ピアスタッフ協会、地域活動支援センターひふみ

実施イベント

- 8月23日(金) 夏だ!海だ!ディスコde盆
- 10月3日(木)、10月8日(火) 美術ワークショップ
- 10月3日(木)、10月7日(月)、10月17日(木) 音楽ワークショップ
- 10月25日(金) 楽しい、楽しい、みんなが楽しい秋祭り

病院と地域がつながる
アートなお祭り

神奈川県最初の精神科病院である紫雲会横浜病院の有志と地域活動支援センターひふみが協働し、新しいお祭りを企画・運営する取組の一年目。病院では、30年以上を超える社会的入院と3か月以内の短期入院の二極化が進み、入院期間が長くなるほど、地域との関わりが少ないという状況があります。今回は事前のワークショップと、イベントを開催することで、ゆるやかに新しい関係性を築いていきました。

イベントとして実施したのは、大人も子どもも楽しめるディスコイベント。介護サービスや精神障害者自立支援サービス、放課後等デイサービスなどを提供するエニタイムとのコラボ企画で、参加者は仮装をして自由な時間を楽しみました。

音楽ワークショップでは、入院患者と、地域で生活する精神障害の当事者が参加し、オリジナルソングを制作。歌詞を考える過程で振付が誕生したり、特技のモノマネを披露する人が現れたりそれぞれの表現を豊かに味わう時間

を経て、お祭りのための歌が出来上がりました。また、非常空間を演出するため、当日身につける衣装として、かぶりものをつくるワークショップを開催。会場装飾のためのカラフルなモバイルづくりも行いました。ワークショップの実施は病院で働くスタッフにも、作業療法プログラムの発展につながるような新しい刺激を与えました。

企画から運営まで当事者と共に行い、当日は作業療法室を会場に、輪投げや占い、ネイルサロンなどバラエティー豊かな出し物が並びました。他者が入ることで社会的役割が生まれ、頼られたり任されたりすることが満足感につながったようです。音楽ライブの時間は、会場全体が一体となり、最後には来場者も巻き込んでの大合唱。いつもの部屋が「地域」でも「病院」でもない空間に変わる不思議な時間となりました。

来年度以降も当事者が主体的に関われるスピードを維持しながら、少しずつ地域からの参加を促していきたいと考えています。



帽子づくりのワークショップ



モバイルづくりのワークショップ



楽しい、楽しい、みんなが楽しい秋祭り



楽しい、楽しい、みんなが楽しい秋祭り



NPO法人ぶかぶか

連絡先
URL <https://www.pukapuka.or.jp>
E-mail info@pukapuka.or.jp
TEL 045-453-8511
Facebook <https://www.facebook.com/npopukapuka/>

団体紹介

知的障害のある人たち約40名が働く、パン屋、お惣菜屋、ご飯処、アートスタジオ、畑を運営。お店の運営だけでなく、地域社会とのつながりを密にするためにパン教室、演劇ワークショップのほか、近隣の大学で授業も行っています。



山猫と馬車別当 撮影者/後藤京子

障害のある人たちと一緒に作り出す
未来への希望を託した音楽劇

今回も、ぶかぶかで働く障害のある人と地域住民が、演劇ワークショップを通してオリジナルの音楽劇を創作しました。題材は宮沢賢治「どんぐりと山猫」。どんぐりの写真を見て体で表現したり、どんぐりの帽子を作ったりするところからスタートしました。話し合いや「ちょっとやってみよう」ということを積み重ねて作品が出来上がっていくため、本番一週間前にシーンが大幅に変更になるといったこともありました。

出来た作品は「表現の市場」というフェスティバルを開催し、発表。他にもさまざまな団体を招き、障害のある人もない人も楽しめる舞台を目指しました。ひよこの会(鶴見区知的障がい児者親の会)から生まれた和太鼓あらじんの演奏や、みなせた(水俣世田谷交流実行委員会)の「車椅子あるある」など、バラエティー豊かなラインナップで、会場は早い時間から満席状態。会場に入れず、ロビーのモニターテレビで見る人も出るほどの盛況ぶりでした。第

一期の開催時には客席の半分も埋まらなかったことを思えば、格段の進化といえるでしょう。コツコツと実績を積み重ねたことと、こまめな発信が実を結んだのだと思います。

約40人で作り上げた「ぶかぶか版・どんぐりと山猫」は、出演者一人ひとりの個性と生演奏が絶妙なハーモニーを奏で、「障害のある人たちと一緒に生きていった方がいい」というメッセージを、言葉ではないかたちで発信しました。手拍子のリズムが重要な曲では、観客も自然と手拍子に加わり、会場が一体感に包まれました。「支援」ではなく「一緒に生きる」関係で作ってきた作品だからこそ、たくさんの方が共感できる舞台になったのだと実感しています。

事業継続にあたっての課題は、なんといっても資金の獲得です。アートグッズの製作や作品販売、すでに実施している人権研修会などを通して企業との協働を行うといった計画を検討し、安定的な事業継続に向けた仕組みを作りたいと思います。

会期：2019年8月17日(土)～2020年1月26日(日)

会場：緑区民文化センター みどりアートパーク リハーサル室、ホール

来場者数：638人

参加アーティスト：花崎攝、倉田春香、伊藤多恵、今村舞、吉村安見子、江原望、成沢富雄、斉藤一男、渡辺大地、金子光史、魚住佐恵、近藤麻子、星野英俊、長谷山理也、岡田大治、麻生涼輔、中島龍斗、堀内翼、麻生陸斗、北島遼太郎、瀬川大和、今井湧太、玉田耕太郎、倉持勇紀、いかりや直樹、丸山注、楠プー、木村けん、横洲茶、鈴木工事、山本寛平、松本つる太郎ラサール城野、河崎シロー、ウド光太、田熊RYO

主催：NPO法人ぶかぶか

共催：緑区民文化センター みどりアートパーク

後援：横浜市緑区社会福祉協議会

協力：演劇デザインギルド、オペラシアターこんにゃく座

実施イベント

8月17日(土)	みんなでワークショップ
9月21日(土)	みんなでワークショップ
10月19日(土)	みんなでワークショップ
11月16日(土)	みんなでワークショップ
12月14日(土)	みんなでワークショップ
1月18日(土)	みんなでワークショップ
1月25日(土)	みんなでワークショップ
1月26日(日)	表現の市場



きのこの踊りを作る



リハーサル

フィナーレ
撮影者/後藤京子



本牧子どもディスコ実行委員会

連絡先
E-MAIL artdisco2@gmail.com
Facebook <https://www.facebook.com/kodomodisco/>

団体紹介

子どもディスコは旧本牧アートプロジェクトをきっかけに、2015年からダンサー・内木里美が企画。2019年から本牧アートプロジェクトの意志を引き継ぎ、本牧子どもディスコ実行委員会として独立。子どもディスコから本牧のまちを盛り上げます！



撮影者/奥村敬子

地元発祥のダンスステップで
子どもたちが踊るディスコイベント

中区・本牧の旧映画館で、子どものためのディスコイベントを開催する試みの5年目。準備期間には、地元の子どもたちに向けてダンサー・内木里美による無料のダンスレッスンを実施しました。

レッスンでは、本牧のディスコ文化から生まれたダンスステップ「フリーチャチャ」を中心にレクチャー。子どもたちは、イベント終了後も自主的に家庭でダンスの練習をしているようです。保護者からは、そんな子どもの姿を目にしたのは初めてだという声も届きました。時代の流れに伴い、失われつつある地元の文化が次世代に受け継がれる一助になったことはうれしい成果です。開催を重ね、イベントのクオリティが上がるとともに、子どもに与える波及効果も高まっていることを実感しています。

イベント当日は、旧映画館のロビーをディスコ仕様に飾り付け、光と音の演出でムードを盛り上げました。カウンターではノンアルコールの「子どもカクテル」を販売。空きスペース

を活用してゆったりくつろげる休憩スポットも用意するなど、地域ボランティアとクリエイター28名が協力し、一日限りのディスコ空間を作り上げました。

ステージプログラムは、事前レッスンを重ねた子どもディスコダンスチームだけでなく、地元ダンスチームやゲストダンサーも出演する盛りだくさんの内容。ゲストダンサーの一人である藤中一郎さんは、かつて伝説のディスコ「LINDY」の店長を務めた、フリーチャチャの伝道師です。

毎年、多くの方に支えられている本プロジェクトですが、資金やスタッフの不足は引き続き大きな課題です。子どものための無料ダンスレッスンを継続するためにも、今後は有料ダンスレッスンを一般向けに定期開講することも検討しています。資金調達のための事業を進行しつつ、地域性を失わず、創作を妥協しない。すべてのバランスを保ちながら活動を続けることは容易ではありませんが、本牧ならではのディスコ文化をアピールするため、今後も継続していきます。

会期：2019年11月17日(日)～2020年1月26日(日)
会場：横浜市立大鳥中学校コミュニティハウス、横浜市立間門小学校体育館、横浜市立本牧南小学校体育館、横浜市立本牧中学校コミュニティハウス、HONMKOKU AREA-2
来場者数：296人

実施イベント	
11月17日(日)	ダンスワークショップ①
11月24日(日)	ダンスワークショップ②
12月7日(土)	ダンスワークショップ③
12月26日(木)	ダンスワークショップ④
1月11日(土)	ダンスワークショップ⑤
1月18日(土)	ダンスワークショップ⑥
1月25日(土)	ダンスワークショップ⑦
1月26日(日)	ダンスワークショップ⑧
1月26日(日)	子どもディスコ season5

参加アーティスト：笠原彰二、高田展弘、MJLPANK、亀山しゅういち、革崎文、HEAVEN HUG DESIGN、0g、イノウエタカヒコ、奥村敬子、前田美和、吉橋有、安室久美子、桑山まり子、津森康男、児玉州平

主催：本牧子どもディスコ実行委員会
協力：子どもVJ☆Ryusuke、村野さん、温井さん、大久保さん、加藤さん、孝司さん、千代子さん、吉野さん、大月さん、小川さん、宮崎さん、エビちゃん、こうせいくん
後援：リボンファストリート、横浜市立大鳥中学校コミュニティハウス、横浜市立本牧中学校コミュニティハウス、横浜市立間門小学校放課後キッズクラブ、横浜市立本牧南小学校放課後キッズクラブ、HOCS(本牧コミュニティ・ステーション)、Yokohama FDS、ツインソウル、西木金物店
特別協賛：有限会社ナイキスタンダード、株式会社エスタディオホールディングス
協賛：有限会社小林薬局(子どもカクテル)、本牧ベース、横浜ロイヤルホテル、本牧Hello!cafe、美濃屋あられ、本牧葬儀社本牧ホール、ようせいのいたずら、本牧玉家、Honmoku Cake-ya yoko、炭火焼鳥おきまる、エムアンドエス、森野頒布株式会社



撮影者/奥村敬子



撮影者/miwa maeda



撮影者/miwa maeda



ゆたかなイばしょ運営委員会

連絡先
E-MAIL mail@nitehi.jp
TEL 090-8045-0007
Facebook https://www.facebook.com/yutakanaibasyo/
Twitter @4Y3MMKvrRtZrq2t

団体紹介

育児環境・教育・コミュニティーデザイン・文化芸術・それぞれの分野からの視点・意見を交換し、より身近なところから、消費されない「価値」を探し、そこにしかない「出会いと気づき」を活動の軸としています。無計画で完成の無い、偶然にも余白が美しい絵画が生まれる様な感覚を、多くの暮らしの中に育てていきます。



日常の風景 撮影者/野田昌志

参加者のアイデアで合体したり変形したり
アートを楽しむ移動式屋台

地域のアーティスト、大学生、子どもが協働し、消費しないモノづくりを実践するアートプロジェクトの一年目。移動式屋台を使ったまちづくりを考える「ハマの屋台プロジェクト」(横浜国立大学)のオリジナル屋台を活用し、地域に交流を生み出すことを狙いました。小学生の放課後支援事業「ピクニックスクール」で、子どもたちを対象にしたヒアリングを行い、屋台制作のためのアイデアを集めるところから始まりました。

学生は身の回りの物を持ち寄り、アーティスト協力の下で屋台づくりを実施。不用品だった物にアイデアを重ねることで、自由で予想外な屋台が出来上がりました。設計図通りに作るのではなく、そのとき居合わせた人々が交流することで、自分の想像を超えたものが生まれるという「モノづくり」の醍醐味を体験したことは、この後のアートワークショップにも大きな影響を与えました。

制作した屋台を中心にしたアートワークショップは、

横浜の中心部にありながら、生活の場でもある関内・関外エリアを中心に展開。主に子どもを対象とし、4歳から10歳ぐらいまでの子どもとその保護者が、古紙を活用したぼんぼりや仮面づくりを体験しました。これは「手で作る」という行為を介した新しいコミュニケーションであり、世代、国籍、立場を超えて交流できる可能性を感じさせる時間となりました。出来上がったぼんぼりは屋台のアタッチメントとしても活躍し、空間に彩りを添えました。

地域のイベントへの出展を繰り返した後、子どものアイデアを活かした一日限りの不思議な図書館をオープンしました。いくつかの屋台パーツを仮設北仲ブリックの空間全体に配置し、本から受けたインスピレーションをアートでアウトプットするワークショップコーナーを用意。書道やペイントのアーティストをゲストに迎え、参加者の自由な表現をサポートしました。今後も屋台を中心にモノづくりの場を展開し、人が交わるきっかけを生み出します。

会期:2019年8月21日(水)~12月22日(日)

会場:仮設北仲ブリック、大通り公園

来場者数:230人

参加アーティスト:稲吉稔、高橋亮、若原歩花、松井このみ、吉末真由美

主催:ゆたかなイばしょ運営委員会

共催:似て非works株式会社、横浜国立大学地域実践教育センター ハマの屋台プロジェクト、株式会社ピクニックルーム、処デザイン学会

後援:関内まちづくり振興会

協力:株式会社オンデザインパートナーズ

実施イベント

8月21日(水) 廻るアートラウンジのワークショップ
8月23日(金) 廻るアートラウンジのワークショップ
11月9日(土) 廻るアートラウンジのワークショップ
12月22日(日) 廻るアートラウンジのワークショップ
[へんしんとしょかん]



へんしんとしょかん



私とキティと「その間」
撮影者/Hajime Kato



いっしょにライブ
撮影者/野田昌志



撮影者/野田昌志

Happy Place for Mom

～ママのためのゴスペルワークショップ～



洋光台ママゴスペルサークル なないろハーモニー

連絡先
URL <https://mamanairo.wixsite.com/nanairoharmony>
E-mail mamanairo@gmail.com
Facebook <https://www.facebook.com/nanairoharmony/>
Twitter @mamanairo

団体紹介

ママになっても、子どもがいても歌やハーモニーを楽しみたいという思いを持ったママが中心となって活動しています。磯子区洋光台を中心に地域のイベントや活動に積極的に参加。ゴスペルを楽しむことを通して、子育て世代の地域での居場所づくりを目指しています。



ピアノを囲んで

歌というコミュニケーションで 子育て中のママがつながる

子育て中の母親が中心となり、自分自身の楽しみを通じてつながる場としてのゴスペルワークショップ。今年度は、毎回10人以上の参加者が集まり、充実した活動となりました。ワークショップでは、楽譜を持たず、ゴスペルディレクター＆ピアニストの生演奏に合わせて、聴いたままを繰り返し歌いながら覚えていくため、初めての参加者も自然と顔を見合えます。継続的に参加できなくても、その日集まったメンバーでライブ感を共有することは、活動の醍醐味の一つです。

こと子育て中の母親は、自身の興味や楽しみのためのコミュニティに加わるのが難しい状況にあります。地域住民の参加や、地域のイベントへの出演を通して、母親自身が楽しむことの重要性を地域や社会で共有することを目指しました。

恒例行事となりつつあるクリスマスコンサートでは、合唱だけでなく、絵本の読みきかせや腹話術といったパフォーマンス要素も取り入れ、クリスマスの雰囲気を楽しめる

ような演出を凝らしました。当日は雨にもかかわらず、想定よりも多くの親子が訪れ、とてもあたたかい会となりました。

課題となっているのは、若い世代の母親へ向けたアプローチです。地域の子育て支援施設で、初めての妊娠を経験している女性や、転居してきた新住民などその都度対象を絞って、多様なPRを試みましたが、興味を持ってくれるものの、なかなか参加まで至らなかったというのが実情です。昨今、いわゆるワーキングマザーが増えていることから、産休・育休中の自分自身の楽しみ場として、引き続き参加を促していきたいと思います。また、若い母親が安心して参加できる環境を整えるため、ソフト、ハードの両面から工夫する必要があると考えています。

運営メンバーに関しては、大きな増加はないものの、安定している状態です。また、事業を継続してきたことで一人ひとりの主体性も高まってきたため、引き続きこの状態を維持したいと考えています。

会期：2019年7月1日(月)～2020年1月27日(月)
会場：洋光台四丁目自治会館、洋光台地域ケアプラザ、
横浜市社会教育コーナー
来場者数：262人

参加アーティスト：澁井真代、藤原京子、上田志穂

主催：洋光台ママゴスペルサークル なないろハーモニー
後援：洋光台地域ケアプラザ
協力：磯子区地域子育て支援拠点「いそびヨ」、洋光台四丁目自治会、洋光台
ニュース&ポータルサイト「ラブリ洋光台」

実施イベント
7月1日(月)、
7月29日(月)、
8月19日(月)、
9月30日(月)、
10月7日(月)、
10月21日(月)、
11月11日(月)、
11月26日(月)、
12月2日(月)、
12月16日(月)、
1月20日(月)、
1月27日(月)
11月26日(月) クリスマスミニコンサート
12月2日(月) なないろのクリスマスものがたり

ワークショップ

クリスマスミニコンサート
なないろのクリスマスものがたり



地域の夏祭りにて



夏休みは子どもたちもたくさん



地域の交流イベントへの参加



全身で楽しむゴスペルレッスン

幻の記録映画「寿ドヤ街 生きる1&2」上映会in寿町
70年代の鶴見を記録した映画
「日曜日の子供たち」上映会in鶴見



横浜キネマ倶楽部

連絡先
URL <https://ykc.jimdofree.com/>
E-MAIL yokohama_kinemaclub@yahoo.co.jp
TEL 080-8118-8502
Facebook <https://www.facebook.com/kinemaclub/>
Twitter @YokohamaKinema

団体紹介

横浜キネマ倶楽部は、横浜で永年親しまれてきた映画館の相次ぐ閉館を惜しむ映画ファンが集まり、2005年5月発足し、「横浜に映画ファンの思いが反映される映画館をつくる」ことを目標に掲げて活動を続けています。



「寿ドヤ街 生きる」講演

ドキュメンタリー映画を通じて
まちと出合い直す

横浜で撮影された映画を、そのロケ地で上映する企画の2年目。今年度は中区寿町と鶴見区末広町という2つの地域を舞台に、3本のドキュメンタリー映画上映と、それぞれの地域でのフィールドワークを行いました。どの作品も、撮影当時の地域の姿を捉えた貴重な記録映画でありながら、これまでなかなか上映の機会に恵まれなかったこともあり、上映会はすべて新聞の紙面で紹介されました。その結果、新聞記事で上映会を知り参加された方も多く、大勢の方に上映会の活動を知っていただく良い機会となりました。

昨年度も会場となったかながわ労働プラザでは「寿ドヤ街 生きる」(1981年)、「寿ドヤ街 生きる2」(1984年)という2本の映画を上映しました。前回の上映作品「どっこい! 人間節-寿・自由労働者の街」(1975年)にスタッフとして関わっていた渡辺孝明さんが監督した作品です。昨年度、来場者アンケートで作品の存在を知り、今回の上映につながりました。

上映に先駆けて開催したフィールドワークでは、横浜社会福祉研究会の研究者による寿地区の視察説明と学習会を実施。2019年6月にオープンした横浜市寿町健康福祉交流センターの見学も行いました。上映会では渡辺監督による1時間の講演も行い、会場には映画に携わったスタッフや当時を知る関係者も参加しました。

鶴見区では、1970年代の子どもたちを撮影した「日曜日の子供たち」(1980年)の上映と、ロケ地巡りを行いました。本作品が鶴見区で上映されるのは40年ぶりのことです。上映当日は、撮影時に映画の舞台で遊んでいたという住民が来場し、堀田監督との再会が実現しました。

映画に関係する場所で上映を行う際、苦労するのは会場の確保です。今年度使用した会場は特に利用希望者が多く、希望日の予約が難しかったため、広報に十分な時間が割くことができずでした。今後は、広報活動の時間を確保する手段を考え、さらに多くの人々に作品を届けていきます。

会期:2019年8月31日(土)~11月4日(月)
会場:寿地区、神奈川県立かながわ労働プラザ、鶴見区小野町・末広町、鶴見公会堂
来場者数:823人

実施イベント
8月31日(土) 寿町フィールドワーク
9月7日(土) 映画「寿ドヤ街 生きる」上映会in寿町
10月22日(火) 映画「寿ドヤ街 生きる2」上映会in寿町
10月27日(日) 「日曜日の子供たち」上映会直前撮影現場訪問
11月4日(月) 映画「日曜日の子供たち」上映会in鶴見

参加アーティスト:渡辺孝明、堀田泰寛

主催:横浜キネマ倶楽部
後援:横浜市教育委員会、鶴見区、横浜市鶴見区社会福祉協議会
協力:横浜社会福祉研究会、横浜市従業員労働組合、映像グループローポジション



「日曜日の子供たち」講演



寿地区フィールドワーク



鶴見ロケ地巡り



「寿ドヤ街 生きる」上映前ロビー



横浜下町パラダイスマつり実行委員会

連絡先
URL <http://downtownart.hama1.jp/>
E-mail yokohamawakaba@gmail.com
Facebook <https://www.facebook.com/ParadiseFes/>
Twitter @ParadiseFes

団体紹介

横浜下町パラダイスマつりの参加アーティストたちによって設立された実行委員会です。横浜開港以来の歴史が集積されてきたこの地域の独自性を理解し、アーティストたち自身が自主的に活動を継続しています。



モン族テン・ヴァン「Let's Experience the Hmong Instrumentsモン族楽器体験」 撮影者/今井紀彰

いろいろな文化が入り混じるまちから
アートという切り口で世界を見る

多文化なまちにある映画館と、その一階にあるアーティストの拠点を中心に、映画を通じて身近な「世界」を考える「よこはま若葉町多文化映画祭」と、アーティストたちが企画する「横浜下町パラダイスマつり」。11回目となる今年度は、子どもを中心に周囲を巻き込んだ新しい形を探ることをイメージしながらスタートしました。

多文化映画祭は、移民やマイノリティをテーマにした作品のほか、「子どもたぶんかえいがさい」としてコミカルなサイレント映画を日替わりで上映。観客動員数が振るわなかった前回に比べ、2.8倍もの動員がありました。上映作品や社会情勢などによっても左右されるため、安定的に動員を確保することはできませんが、なかなか見ることのできない貴重な映画の上映を通して、多様性について考える機会が生まれていることを実感しています。また、これまで韓国移民映画祭と交流を重ねてきたことにより、韓国の映画館・ミリム劇場との共同企画が実現しました。

日本初公開となる韓国映画の上映だけでなく、韓国からのゲストたちと映画祭の関係者や来場者が直接交流する、意義深い時間となりました。

アーティストによる近隣の子どもたちに向けたワークショップは、いつでも参加したいときに参加できるようにし、なるべくその場から子どもたちを排除しないことを心掛けました。その結果、何となくその場にいるように見えた子がとても楽しんでいただけたことがわかったり、文字の読み書きが苦手な「参加」を嫌う子が、気になる企画のスケジュールをチェックしていたりと、今後につながるさまざまな可能性を感じる場面がありました。

会場である横浜パラダイス会館では、日常的に子どもたちや近隣の人たちとの交流や活動を行っています。息切れせず持続的に運営していくためには、これまでのように夏休みにイベントを集中させるのではなく、年間にわたって緩やかに活動する方向にシフトする必要があると考えています。

会期：2019年7月25日(木)～9月8日(日)

会場：横浜パラダイス会館、大通り公園、大岡川、シネマジャック&ベティ、富士見川公園、若葉町周辺

来場者数：3,585人

参加アーティスト：末島友幸、中村剛彦、青山るり子、青山ふじこ、青山たまこ、テン・ヴァン、女装アオちゃん、今井紀彰、乾信治、砂山典子、伊藤修、たんぱりん、スズキクリ、米野みちよ、真鍋祐子、港千尋、竹田恵子、カツマタマリー、門脇篤、有言達宏、石花空泉、おどるなつこ、高村典子、パンクロック・スラップ、チェ・ヒョンジュン、ラ・オミ、キム・プルナ、キム・インスク、梶原俊幸、中野淳一、震災作文研究者、ビッグイシュー販売員イデちゃん、ビッグイシュー販売員シモちゃん、Art Lab Ova

主催：横浜下町パラダイスマつり実行委員会

共催：Art Lab Ova、横浜シネマ・ジャック&ベティ、よこはま若葉町多文化映画祭実行委員会

後援：中区役所、公益財団法人 横浜市国際交流協会

協力：若葉町町内会

実施イベント

- 7月25日(木)～9月8日(日) 多文化な子どもたちとたどる旅の道
- 8月10日(土) マレーシアのアーティスト集団「パンクロック・スラップ」木版画ワークショップ
- 8月11日(日)～8月12日(月) 仙台在住アーティスト門脇篤「夏休みのお題教えます」
- 8月14日(水)～8月18日(日) ダンサーおどるなつこおどる!
- 8月14日(水)～8月22日(木) 仙台在住アーティスト門脇篤
- 8月17日(土) 「戦後インドネシアに在留した日本人兵士/インドネシア人実習生」こども「石花ワークショップ」
- 8月18日(日) アーティスト末島友幸「復活 新幹線ゲーム」
- 8月17日(土)、8月25日(日)、9月1日(日) アニメーション作家有吉達宏「だれでもできるアニメーションワークショップ」
- 8月23日(金)、8月26日(月) モン族テン・ヴァン「Let's Experience the Hmong Instrumentsモン族楽器体験」
- 8月24日(土) ワンダフル・ド・アズライブ
- 8月24日(土) みんなでごはん会
- 8月24日(土)～8月25日(日) 9月1日(日) 中野さんと講子の器を語りあう
- 8月24日(土)～9月1日(日) 三代目うお時「福岡焼き」
- 8月24日(土)～9月8日(日) よこはま若葉町多文化映画祭2019
- 8月24日(土)～9月1日(日)、9月6日(金)～9月8日(日) ビッグイシュー販売と手品
- 8月25日(日) 横浜茶館乾宗賢先生「喫茶去」
- 8月26日(日) 劇作家岸井大輔 横浜下町パラダイスマつり10周年トーク
- 8月27日(火) 横浜古典遊技場乾信治先生「良合せ」と「驚双六」
- 8月27日(火) 映画「ヴァンダの部屋」関連写真家港千尋さんトークと交流会
- 8月28日(水) 映画「ディヴァイン・ディーバ」関連スナッチ&マリ-SHOW
- 8月29日(木) 詩人中村剛彦「若葉町コトダマツの晩飯会」
- 8月29日(木) 映画「600年の航海」関連フィリピン音楽研究者 米野みちよさんトークと交流会
- 8月30日(金)、9月6日(金) ダンサー青山るり子たまこふじこ「ダンス全体&こどもちゃんちゃんお茶会」
- 8月30日(金) 乾先生とベリ-ダンスショー! @ココハマアジアンダイニング&バー
- 8月30日(金) 女装アオちゃん「ワトゲータ」
- 8月31日(土) 女装アオちゃん「大岡川で魚釣り」
- 8月31日(土) しまもと新聞「ベテグをつくろう」
- 8月31日(土) モン族テン・ヴァン「Tengのモン族クラス」
- 8月31日(土) モン族テン・ヴァン+ダンサー青山るり子「モンモン散歩」
- 8月31日(土) 雑歌丸師匠の弟子の雑歌師匠の弟子(アマ)乾宗賢「落語～茶の湯 第二集」
- 8月31日(土) 肉とダンスのタバfeat.スナッチ
- 8月31日(土) 映画「マリナの明日」関連ジェンダー研究者 竹田恵子さんトークと交流会
- 9月1日(日) シネマジャック&ベティサロン
- 9月1日(日) みんなでおさんぽ手持ち花火大会!
- 9月7日(土) 映画「工作 黒金と呼ばれた男」関連朝鮮研究者真鍋祐子さんトーク
- 9月7日(土) 映画「1991、春」関連朝鮮研究者真鍋祐子さんトーク
- 9月8日(日) 韓国のアーティストラ・オミ「写真ワークショップ～同時上映劇場」
- 9月8日(日) 関東大震災後の横浜震災作文と一緒に読む
- 9月8日(日) 韓国のアーティストたちによるプレゼンテーションと交流会



横浜茶館乾宗賢先生「喫茶去」
撮影者/Art Lab Ova



インドネシア人とインドネシア料理
撮影者/今井紀彰



モン族テン・ヴァン「Let's Experience the
Hmong Instrumentsモン族楽器体験」
撮影者/今井紀彰



若葉町ウォーフは劇作家、演出家である佐藤信の呼びかけで2015年にオープンしました。1階に劇場(ホワイトキューブ)、2階にスタジオ、3階には宿泊施設を備えた民間のアートセンター。アジア各国のアーティストとの協働プログラムに特に注力しています。

連絡先
E-mail nfo@wharf.site



ホセイン・ゴルバ「ひかりのさず | さずのひかり」

劇場をまちに開くことで 新しい出会いの場を作る

若葉町ウォーフという小劇場を拠点に、普段閉鎖的になりがちな劇場を、誰もが気軽に立ち寄れる場として開放し、地域の活性化と情報発信を担うアートセンターとして機能させる試みの一年目。書道家と美術家それぞれの個展と、まちとアートスペースの関わりについてのシンポジウムという3つのプログラムを10日間ずつ開催しました。

書道家・渡邊麗の個展では、大判の作品をインスタレーションのように配置。空間全体で書の世界を演出しました。関連イベントでは、能楽師・清水寛二による能舞を行いました。

イラン出身の現代美術家であるホセイン・ゴルバのプログラムでは、キュレーターチームに水沢勉(神奈川県立近代美術館館長)、西松典宏(元NHK日曜美術館プロデューサー)、伊藤裕夫(文化政策研究)を迎え、新作の制作と発表を行いました。2メートルほどの木製の立方体に大量の傷をつけた作品は、あちこちがささくれ立ち、その佇まいは、見る人を圧

倒させました。オープニング特別企画として開催したフルートとチェンバロによる記念コンサートは、満席となりました。

最後のプログラムは、中国・重慶の寅子小劇場との共催企画として、重慶の庶民が集う「交通茶館」の日々を伝える写真展と、シンポジウムを開催しました。アートによるまちづくりを進める黄金町エリアマネジメントセンターと、日ノ出町エリアでまちに開かれたコミュニケーションスペースを運営するTinys Yokohama Hinodechoをゲストに招き、それぞれの活動から見てきたアートとまちの関係や、コミュニティと共に育つ若手アーティストの活動について情報を共有しました。

今後の事業展開において重要な協力体制を、地域の中だけでなく、国際的な面でも構築できたことは大きな成果です。一方、広報の面では新たなルートの開拓が必要だと考えています。近隣で活動する芸術団体や施設などと連携し、さらに地域でのプレゼンスを高めていきたいと考えています。

会期：2019年8月31日(土)～2020年1月27日(月)

会場：若葉町ウォーフ

来場者数：451人

参加アーティスト：渡邊麗、清水寛二、ホセイン・ゴルバ、段田尚子、加久間朋子、胡音(フー・イン)、李明、左奇灵

主催：一般社団法人若葉町計画

実施イベント

8月31日(土)	文字の彼方
～9月8日(日)	
9月2日(月)	「文字を舞う」
11月7日(木)	ひかりのさず さずのひかり
～11月17日(日)	
11月8日(金)	段田尚子コンサート
1月22日(水)	お話し「まちの居場所」
11月22日(金)	茶館故事
～1月27日(月)	



写真展「茶館故事」



渡邊麗×清水寛二「文字を舞う」



段田尚子フルートコンサート



お話し「まちの居場所」

横浜を舞台にした映画プロジェクト 「ライフワークス」への製作、活動助成



LifeWorksプロジェクト

連絡先
URL <http://lifeworks-film.com/>
E-mail info@lifeworks-film.com
Facebook <https://www.facebook.com/Lifeworks.film/>

団体紹介

これまでに映画、テレビなどでは紹介されなかった横浜の魅力を描くことを目的とします。また横浜の映画館まで足を運ばないと観ることができない「オマケの短編映画」なので、特集上映での収入を除いて、非営利上映として地元の活性化にも繋げていきます。



lifeworks監督シンポジウム 登壇：利重剛、大崎章、井川広太郎、伊月肇 ゲスト：山本政志

スクリーン越しに出会う誰かの人生の一瞬と それを取り巻く横浜の風景

横浜在住の映画監督・利重剛と中村高寛による横浜を舞台にした連作ショートフィルム「LifeWorks」。映画館に足を運ぶきっかけになればと、シネマ・ジャック&ベティ、横浜シネマリンで、本編上映前のオマケ映画として上映を行ってきました。今年度はこれまでに制作した作品のうち12本の特集上映を開催し、観客層の拡大を目指しました。

通常の上映では月ごとに新作に替わっていくため、特集上映は、まとめて作品を鑑賞できる貴重な機会です。上映だけでなく舞台挨拶やトークイベントも連日開催。「ハマの靴探偵」舞台挨拶の実施日には、主演の小野瀬雅生さん（クレイジーケンバンド）のアコースティックライブも開催しました。上映作品はどれもオール横浜ロケです。若手映画監督の作品や、横浜を代表する写真家・森日出夫の監督デビュー作などバラエティー豊かなラインナップで、横浜のさまざまな魅力に触れる機会を生み出しました。元々がオマケ映画という特性から、お金を払って来場する観客をど

れだけ取り込めるか不安でしたが、最終的には800人を超える観客に恵まれました。第一期の上映から5年が経ち、認知度も高まったことで、LifeWorksのファンを獲得できたのだと実感しています。また、今年度は地域のリサーチのためのフィールドワークやインタビューを実施し、生活しているだけではなかなか見ることのできない、まちの新しい一面を顕在化しました。

特集上映によって横浜における本プロジェクトの周知は広まった一方、まだまだ市外での認知度向上には至っていません。市内メディア以外にも、積極的にプロモーションを行いました。いずれはLifeWorksを観るために、横浜を訪れるという観客層を育成し、横浜の映画館文化を盛り上げていきたいと考えています。一方、映画館に行く習慣のない層に対する地道な宣伝、広報活動も必要不可欠です。日々更新されるまちの風景を記憶するプロジェクトとして、今後も地域にアプローチしていきたいと思っています。

会期：2019年9月6日（金）～2020年1月31日（金）
会場：横浜シネマリン、シネマ・ジャック&ベティ、Zz's&Babar's、関内アカデミー跡地 ほか
来場者数：828人

参加アーティスト：大崎章、後藤ユウミ、坂田聡、伊月肇、横野純平、大島正華、大島葉子、花島希美、森日出夫、高橋長英、上原用子、井川広太郎、小野瀬雅生、松居大悟、大和田悠太、和田美沙、鶴川健吉、山本政志

主催：LifeWorksプロジェクト
協力：伊勢佐木町商店街（イセザキ・モール1・2st.）

実施イベント	実施日時	会場
フィールドワーク	9月6日（金）、12月3日（火）、1月7日（火）、1月17日（金）、1月18日（土）～1月31日（金）	
特集上映	1月18日（土）～1月31日（金）	
上映トークイベント	1月18日（土）～1月31日（金）	
監督シンポジウム	1月24日（金）	
懇親会	1月24日（金）	
「ハマのギター探偵・小野瀬雅生アコースティックソロライブ」	1月30日（木）	



監督シンポジウム後の懇親会（記念撮影）



連動企画
「ハマのギター探偵・小野瀬雅生アコースティックソロライブ」
@Zz's&Babar's



「もぎりさん」と語る、オマケ映画の密かな楽しみ
登壇：利重剛、中村高寛
ゲスト：片桐はいり



「グッドモーニング」トーク
登壇：森日出夫（監督）、高橋長英（出演）、上原用子（出演）



団体紹介

LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMAはバイリンガルのアーティスト3人が立ちあげた、親子に向けてアート活動している団体です。多様な表現方法を通して、柔軟な発想、豊かな感性を磨き、創造性を養うことを最大の目的としています。



だるまアート 撮影者/Nanako Koyama

多文化な子どもたちの
自由な表現と個性を引き出す

今年度も、両親の属する文化圏とは異なる国で育つサードカルチャーキッズを主な対象とした美術ワークショップを開催しました。国際的なファミリーに向けたマンスリーワークショップと、広く一般にむけた公開イベントという2つの事業を進め、世界のアートに親しむと同時に、多様性を楽しむプログラムを実施しました。

これまでも行ってきたマンスリーワークショップ事業では、サードカルチャーキッズと家族のための活動と明確に定義し、そのメッセージを発信することで団体メンバーとの交流がより充実しました。両親の文化と居住地の文化のギャップの中で成長する子どもたちの多くは「自分とはみんなと違う」ということを常に意識しながら暮らしています。ワークショップでは、世界のさまざまなアーティストを紹介しながら、毎回異なる表現手法でアートを楽しみ、「みんなと違う」ことを肯定し続けました。今年度は、ゴッホやバスキア、ピカソ、マチスなどをテーマに、コラージュや切

り絵、セルフポートレートの作品を制作しました。

継続的に開催を続け、少しずつリピーターも増えてきた公開イベントでは「アートを通してグローバルマインドを育む」というミッションを大きく掲げました。夏は、ゴッホの「星月夜」にインスピレーションを得て、キャンパスにアクリル画を描くワークショップを実施。年末には、福島県の伝統工芸品・だるまの絵付けワークショップと、アーティストによるオリジナルDARUMA ARTの展示を行いました。運営メンバーで、どのようにミッションを遂行するかという協議を重ねたことで、団体の進むべき道がはっきりと見えてきました。運営面でも工夫を重ね、よりスムーズにイベントの企画実施ができるようになりました。

また今年度は新しい運営メンバーが加わり、再び3人体制となりました。来年度は、よりコミュニティに根ざした活動を行うと同時に、自立化へ向けて力を注ぎたいと思っています。

会期：2019年7月27日(土)～2020年1月25日(土)

会場：象の鼻テラス、西区福祉保健活動拠点フクシア、臨港パーク、Yokohama Union Church

来場者数：272人

参加アーティスト：望月美音子、ルミコ・ハーモニー、磯部エイミー

だるまアート参加アーティスト：Aimee Isobe, Airi yoshinaga, Ayana Inoue, 中村英里子, Feiling Gu, Lumico Harmony, 一色真由美, さくまみき, Mioko Mochizuki, 橋本彰一, Terachi Hair Make, 妖怪DJ高梵, 伊藤木綿, Masa, 小田祐二, Akane, Frank Woods, Ayane Wada, Kaede, Hiroshi Tsuruoka, Mayuko Okada, Miki Wada, Rokko Miyoshi, Tathina Dhyan

主催：LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA

協力：象の鼻テラス、ターレンスジャパン、NPO法人ザ・グローバル・ファミリーズ、横浜インターナショナルスクール、デコ屋敷本家大黒屋、仕立屋と職人、ターナー色彩株式会社、奥村高明教授

後援：オランダ大使館、日蘭協会、一般社団法人日本伝統文化協会

実施イベント	
7月27日(土)、7月28日(日)～7月29日(月)	SUMMER ATELIER INSPIRED BY VAN GOGH～星月夜を描こう!
8月25日(日)	VANGH GOGH SUNFLOWERS
9月22日(日)	BASQUIAT INSPIRED SELF-PORTRAIT
10月20日(日)	ART OF CIRCUS
11月10日(日)	ACCIDENTAL PORTRAIT INSPIRED BY PICASSO
12月27日(金)～12月29日(日)	WINTER ATELIER DARUMA ART だるまアート
1月25日(土)	MATISSE INSPIRED CUT FELT COLLAGE



LITTLE ARTISTS LEAGUE
撮影者/Toshihiro Achi



ゴッホの星月夜を描こう



ゴッホのひまわりコラージュ

ヨコハマアートサイト 2019 をふりかえる

Look back over the Yokohama Artsite 2019

横浜市地域文化サポート事業「ヨコハマアートサイト」は、
地域課題の解決にアプローチするため、
文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける活動や、
横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援する事業です。

公募概要

対象期間：2019年7月～2020年1月

対象となる活動：以下のいずれかのテーマを含み、横浜市内で実施される美術、
映像、音楽、舞台美術などにかかわる文化芸術活動。

※期間中、不特定多数が参加できる催しが含まれていること。

助成金額：活動資金は1件につき10万円～200万円を助成します。ただし、これ
までに開催実績がある継続活動は原則、助成対象経費の2分の1以内
の助成となります。また、継続して助成する期間は、5年を目安とします。
(6年目も申請は可能ですが、採択の優先度は低くなります。)

2019

YOKOHAMA
Art Site

5月

採択 & 選考

選考委員 (順不同)

戸 舘 正 史 (愛媛大学社会共創学部助教、松山ブンカ・ラボ ディレクター)
藤 川 悠 (茅ヶ崎市美術館 学芸員)
古 賀 桃 子 (特定非営利活動法人 ふくおかNPOセンター 代表)
砂 連 尾 理 (振付家/ダンサー、立教大学 現代心理学部・映像身体学科 特任教授)
原 美 紀 (認定NPO法人 びーのびーの 副理事長・事務局長)

外部の有識者で構成されたヨコハマアートサイト2019選考委員会により
選考を行いました。

実施区	団体名/事業名	採択額
金沢区	アーティストネットワーク+コンパス/会社まるごとギャラリー2019	¥700,000
都筑区、青葉区 ほか	特定非営利活動法人アーモンドコミュニティネットワーク/アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト	¥430,000
中区	認定NPO法人あっちこっち/ アート・フォー・コミュニティ〜若手アーティスト達が人と地域コミュニティをつなぐための次のステップ事業〜	¥600,000
中区	石川町ストリートアートプロジェクト実行委員会/石川町ストリートアートプロジェクト	¥700,000
中区	磯子区障害者地域活動ホーム/あいさつシリーズVol.1 こんにちは うたって おどって つくろうよ	¥500,000
中区	居場所「カドベヤで過ごす火曜日」運営委員会/カドベヤ・オープンDAY〜つどおう・かたろう・つなごろう	¥310,000
西区	特定非営利活動法人Umiのいえ/親子のためのアート&ライブイベント「しあわせのはじまり」	¥300,000
南区	大岡川アートプロジェクト実行委員会/大岡川アートプロジェクト「光のふるむなあと2019」	¥500,000
金沢区	金沢文庫芸術祭実行委員会/第21回金沢文庫芸術祭	¥150,000
西区、中区、南区	紙芝居文化推進協議会/第20回手づくり紙芝居コンクール	¥400,000
中区、神奈川区	黄金町BASE/黄金町BASE	¥800,000
緑区、青葉区、都筑区	ココロはずむアート展実行委員会/ココロはずむアート展	¥200,000
栄区	さかえegaoプロジェクト/さかえegaoフェスティバル	¥300,000
市内全域	NPO法人打楽器コンサートグループ・あしあと/こころに響く打楽器作っちゃお	¥1,200,000
緑区、青葉区	都筑アートプロジェクト/土地の記憶から生まれるアート「田んぼの向こうのこどもの国」	¥800,000
栄区	ティーンズクリエイション組織委員会/ティーンズクリエイション2019	¥200,000
神奈川区	東横フラワー緑道フェスタ実行委員会/東横フラワー緑道アートフェスタ	¥600,000
中区、南区、栄区	Picture This Japan/Picture This Japan 2019:横浜国際ナショナルユースフォトプロジェクト	¥1,100,000
中区	特定非営利活動法人美術保存修復センター横浜/ 未来に繋ごう、皆んなの!!横浜の!!歴史・文化・芸術!! ~美術品修復プロジェクト~	¥400,000
神奈川区	病院と地域の協働によるおまつり実行委員会/病院と地域とアートでつくるおまつり	¥310,000
緑区	NPO法人ぶかぶか/みんなでワークショップ	¥1,000,000
中区	本牧こどもディスコ実行委員会/本牧こどもディスコseason5	¥300,000
中区	ゆたかなイばしょ運営委員会/ゆたかなイばしょのさがしかた	¥700,000
磯子区、港南区、栄区	洋光台ママゴスペルサークル なないろハーモニー/ Happy Place for Mom ~ ママのためのゴスペルワークショップ~	¥100,000
中区、鶴見区	横浜キネマ倶楽部/ 幻の記録映画「寿ドヤ街 生きる1&2」上映会in寿町 70年代の鶴見を記録した映画「日曜日の子供たち」上映会in鶴見	¥300,000
中区、南区、西区	横浜下町パラダイスマつり実行委員会/横浜下町パラダイスマつり2019+よこはま若葉町多文化映画祭2019	¥1,500,000
中区	一般社団法人横浜若葉町計画/若葉町ウォーフ「まちなかギャラリー」	¥800,000
中区	LifeWorksプロジェクト/横浜を舞台にした映画プロジェクト「ライフワークス」への製作、活動助成	¥800,000
中区、西区	LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA/ LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA ART PROGRAM 2019 ~子どもの未来を切り開くグローバルアート活動~	¥500,000

季刊ヨコハマ
アートサイト
Vol.020発行

特集
「横浜の装い」



キックオフ・ミーティング

参加団体による活動
紹介と、事務局より
1年間の流れや各種
手続きについての
説明を行った。



会場:BUKATSUDOホール

ヨコハマ
アートサイト2019
事業開始

アートサイトラウンジVol.22
「地域発・アートでまちと福祉を考える」

栄区内の福祉事業所が連携して開催するアートイベント「さかえegaoフェスティバル」の取組を中心に、栄区で展開するアートプロジェクトのこれまでの振り返り。事例報告とディスカッションを通して、アートと福祉の今後や、コミュニティ・まちの活性化に向けてどんな事が出来るのか、参加者の皆さんと一緒に考えた。



ゲスト:大平由子(さかえegaoプロジェクト)、
岩上百合子(さかえdeつながるアート)、竹本真紀(美術家)
進行:小川智紀(ヨコハマアートサイト事務局/STスポット横浜)
会場:さんぼみちアートdeスマイル

季刊ヨコハマ
アートサイト
Vol.022発行

特集
「素材が循環するまち」



アートサイト
ラウンジとは

ヨコハマアートサイトでは、年4回、アートと地域の関わりについて考える研修と交流の場として「アートサイトラウンジ」を開催しています。地域文化に興味のある方なら、どなたでもご参加いただけます。

6月

6月6日
(木)

7月

8月24日
(土)

9月

11月24日
(日)

12月

事業実施前
ヒアリング

参加団体と事務局が個別
に面談し、事業実施に向け
ての情報共有を行った。

事業実施後
ヒアリング

参加団体と事務局が個別
に面談し、プロジェクトを実
施してみた成果や課題な
どを共有し、フィードバック
を行った。

季刊ヨコハマ
アートサイト
Vol.021発行

特集
「アートと子育て」



アートサイトラウンジVol.23
「アートと考える
子どもが育つ場所のこと」

子どもの豊かな育ちのためには、どんな場が必要なのか。また、文化芸術はどんな風にその場に寄り添うことができるのかをテーマに開催。未就学児向けアートイベントを企画・運営するLITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMAの取組を中心に、子育てを取り巻く市民活動と行政・企業の連携を探るトークイベントを行った。



ゲスト:望月実音子(LITTLE ARTISTS LEAGUE YOKOHAMA)、原美紀(認定NPO法人びーのびーの)、くぜじゅんき(株式会社ダッドウェイ)
進行:小川智紀(ヨコハマアートサイト事務局/STスポット横浜)
会場:港南台タウンカフェ

アートサイトラウンジVol.25
「まちとアーティストが出会ったら」

アーティストがまちに滞在し、地域との関わりの中で作品を育てていくとき、そこではどのような時間が流れているのだろう。「宿のある劇場／劇場のあるスタジオ／スタジオのある宿」としてアーティスト・イン・レジデンス企画を行う若葉町ウォーフや、様々なハンディキャップを持つ人々が作家としてまちに滞在する磯子区障害者地域活動ホームの活動など横浜での事例を紹介するとともに、まちを舞台にパフォーマンス作品を制作・発表してきた俳優・福田毅さんを招いて、アーティストとまちが、互いに他者として出会うことの意義について探った。



ゲスト：山田カイル(若葉町ウォーフ)、安武宗吾(磯子区障害者地域活動ホーム)、福田毅
進行：池田友実(ヨコハマアートサイト事務局/STスポット横浜)
会場：Kosha33ホール

ヨコハマアートサイトは、横浜市役所の文化振興セクションが担当する助成事業であるという枠組みを超えて、独自の光があるように思います。単色ではなくレインボーカラーのイメージです。その感触は本冊子でご覧いただいた通りで、今年度の29事業が残した成果から確認できたのではないのでしょうか。

この多彩な色の光源にあるのは、背後にある運営団体のユニークさです。それぞれの団体の意思決定方法や組織運営体制、予算規模などはまちまちで、独自のルールを持って自律的に活動をしています。共通項を取り出すのは難しいのですが、活動を展開するうえで大切にしていることは似通っているようにも見えます。

まずプロジェクトを通じて、あるいは複数のプロジェクトのはざまの時間で誰かと《出会う》こと。普段は気にも留めない地域や文化、アートや社会といった漠たる何かをともに《見つめる》こと。結論は出なくても、現時点で手もとにある資源でせいっぱい《行動する》こと。そして、意見や考え方が交差する人・しない誰かと《話し合う》こと。

他者との相互性、公共性の基盤を作っている民間の文化芸術活動は数多くあります。私たちは、そんな皆さんとともに横浜の文化を築いていきたいと考えています。

2020年3月

ヨコハマアートサイト事務局

(認定特定非営利活動法人STスポット横浜、横浜市文化観光局、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)

2020

1月9日
(木)

2月16日
(日)

3月

アートサイトラウンジVol.24
「地域の素材でうまれる・つながる」

誰かにとって不要となったものが、創造力により新たな価値を持つアップサイクル。サステナブルな社会のための方法論のひとつとして注目されている。素材を通して企業とアーティスト、アーティストと地域がつながるという点に注目し、アートな取組からその可能性を探った。



ゲスト：男澤誠((一社)横浜もの・まち・ひとづくり 代表理事/
(株)スリーハイ 代表取締役)、
田中清隆(アーティストネットワーク+コンパス)、
杉山孝貴(黄金町BASE)
進行：池田友実(ヨコハマアートサイト事務局/STスポット横浜)
会場：高架下スタジオSite-D

季刊ヨコハマ
アートサイト
Vol.023発行

特集
「創作の場としてのまち」

